

# PRESEA-H 取扱い説明書



## ご使用にあたって

- この取扱い説明書を読んで理解していただいた上で、「PRESEA-H」の操作及びお手入れをしてください。
- この取扱い説明書は、いつでもお読みいただけるよう、大切に保管してください。

# はじめに

この度は、LIXIL商品をご採用いただき、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

ご採用いただきましたサッシの取扱い上の注意事項、及びメンテナンスについての概略説明を記載いたしますので、ご一読くださいますようお願い申し上げます。

サッシやドアは、厳しい自然環境や都市環境において、気温、光、風、音といった要素をコントロールしながら生活環境を守り、快適な居住空間をつくっています。採光や換気、遮音などといった機能を、長い時間のなかで保ち続けていかなければなりません。

サッシが普及した現在においては、この快適さは、当然のこととして人々に思われています。少々であっても、開け閉めが重い、動きが悪いなどといったことで不自由さや不満を感じてしまいます。開け閉めといった操作が支障なくでき、いつまでも快適さを保っていただくために、日常の点検・メンテナンスなど管理をお願い申し上げます。

## 重要なお知らせ

### ご使用の前に

#### ●安全のために必ずお守りください。

「PRESEA-H」のご使用およびお手入れを行う場合は、必ずこの取扱い説明書にしたがってください。なお、この取扱い説明書にしたがわず、乱用又は誤用によって、ケガおよび損害が発生した場合は、株式会社 LIXIL およびその販売会社に責任はないものといたします。

1. この取扱い説明書の記載事項の他にも、あらゆる危険が想定されます。したがって、「PRESEA-H」のご使用およびお手入れの際は、この取扱い説明書の記載事項に限らず、安全対策に関して十分な配慮が必要です。
2. この取扱い説明書は著作権を有し、その権利は留保されています。

# 安全に正しくお使いいただくために

- 商品をご使用いただく上で、人身事故や財産の損害を未然に防止するために、守っていただきたいこととして下記のような警告表示をしています。内容をよくご理解の上、商品をご使用ください。
- 窓、ドア、引戸、網戸の開閉は、人がぶつかったり、指を挟んだり、思わぬケガや事故につながるおそれがありますので、周囲に人がいないことを確認し、引手やハンドルを持ち、ゆっくりと行ってください。
- 窓、ドア、引戸、網戸の開閉時、指を挟んだり、思わぬケガや事故につながるおそれがありますので、操作部品や可動部品のすき間、窓(網戸)と枠のすき間やドア(引戸)と枠のすき間に手や足を置かないでください。
- 窓、ドア、引戸、網戸の取りはずしや調整を行う前に、必ずこの取扱い説明書を読んで正しい操作を行ってください。
- 窓、ドア、引戸、網戸の取りはずしや取付け・調整などを行う際は、周囲に人がいないことを確認し、安全に十分注意して行ってください。
- 窓、ドア、引戸をしっかり閉め、確実に鍵をかけてください。施錠後は、錠がかかっていることを確認してください。
- 窓、ドア、引戸、網戸に寄りかかるなど荷重をかけないでください。
- 長期間商品をご使用になりますとねじのゆるみが発生することがあります。商品のねじがはずれたり、ゆるんでいないか時々点検してください。
- お手入れなどで窓から身を乗り出さないでください。
- お手入れなどのために障子や網戸をはずした後、再び窓枠に取付けたときは、表示ラベルに従ってはずれ止め部品を必ずかけてください。
- 外出時や就寝時、また強風時には必ず窓、ドア、引戸を閉め、主錠だけでなくクレセントロックや補助錠も必ず施錠してください。
- サッシやドアの錠を分解しないでください。故障して施解錠できなくなるおそれがあります。
- 窓やドアの近くに、小さなお子さまが飲み込んでしまうような部品が落ちていないかご確認ください。
- 開閉時や操作時に異常(がたつき、異音、重い、固いなど)を感じた場合は、ご使用を中止し、管理会社さままたは当社お客さま相談センターにお問い合わせください。

## 警告用語の種類と意味

| 警告用語                                                                                          | 意 味                                                                            |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
|  <b>注意</b> | 取扱いを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。商品毎の冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。 |
| <b>お願い</b>                                                                                    | 特に注意を促したり強調したい情報で、指示に従わないと使用者などが思わぬケガをするおそれや、機器の損傷・故障等につながる場合があります。            |

# 目次

| 商品種類                    |                                         | ページ   |
|-------------------------|-----------------------------------------|-------|
| ■ 共通事項                  | 管理者様向け取扱い説明書 お手入れ方法<br>使用上のご注意 商品保証について | 5～13  |
| □ 引違い窓                  |                                         | 14～21 |
| □ 片引き窓・両袖片引き窓           |                                         | 22～24 |
| □ たてすべり出し窓              |                                         | 25～28 |
| □ 突出し窓(排煙オペレーター 隠蔽)     |                                         | 29～30 |
| □ かまちドア(片開き)・かまちドア(両開き) |                                         | 31～33 |
| □ 網戸                    |                                         | 34～40 |
| ・可動網戸                   |                                         |       |
| ・開き網戸                   |                                         |       |
| ・固定網戸                   |                                         |       |
| □ 横引き収納網戸               |                                         | 41～44 |
| □ 横引きロール網戸              |                                         | 45～46 |
| □ Vルーバ                  |                                         | 47    |
| □ 共通事項                  | アフターメンテナンスについて                          | 49    |



## ビル用

ご使用いただいている窓や扉等の建材を、安全に正しくお使いいただくために、必ず取扱い説明書をお読みください。又、いつでもお読みいただけるように大切に保管してください。

管理責任者様は、下記事項をお守りください。

### (1) 次の項目について点検をしてください。

☐ 注意ラベルが汚損又はなくなっていないか点検してください。

→該当する場合は、新しい注意ラベルを弊社へお求めください。

→注意ラベルは、引違い窓、網戸、たてすべり出し窓等に貼付してありますので、ご確認ください。

☐ 引違い窓等や網戸には、脱落防止のために外れ止め部品を設けています。部品のズレや変形・破損がないか定期的に点検をしてください。(14～16、22～24、34～44頁参照)

また、清掃、修繕等の折に外された場合、必ずもと通り調整されているかどうか点検してください。

→もと通りに調整されていない場合は、調整してください。

→調整の方法は、ラベル又は取扱い説明書の方法により行ってください。

→部品等の交換は、故障、脱落などを防ぐため必ずLIXIL製標準部品をご使用ください。

☐ 台風、暴風雨等が予測される場合、必ず出入口や窓が閉まり、施錠されていることを点検してください。

又、台風、暴風雨等が通過後、出入口や窓に不具合がないかどうか点検してください。

→不具合を発見された場合は、応急処置を行い、弊社へご相談ください。

### (2) その他、日常点検において、開閉や施錠等に不具合を発見された場合は、早急に弊社へご相談ください。

### (3) メンテナンス、修理は必ず販売店、弊社の地域ごとの営業事業所またはLIXIL修理受付センターへご用命ください。

## 集合住宅用

ご使用いただいている窓や扉等の建材を、安全に正しくお使いいただくために、必ず取扱い説明書をお読みください。又、いつでもお読みいただけるように大切に保管してください。

管理責任者様は、下記事項をお守りください。

### (1)入居者の方に取扱い説明書を手渡してください。

□弊社では、入居されている方に建材製品を正しく安全にご使用いただくために、取扱い説明書をご用意しております。

→入居されている方に確実にお渡しください。

□入居者が入れ替った場合、新しい入居者に取扱い説明書をお渡しください。

→お手元に取り扱い説明書がない場合、弊社オフィシャルサイトからダウンロードするか弊社営業事業所へ必要部数をお申し付けください。(有料)

### (2)共用部分は、管理責任者様が点検してください。

□注意ラベルが汚損又はなくなっていないか点検してください。

→該当する場合は、新しい注意ラベルを弊社へお求めください。

→注意ラベルは、引違い窓、網戸、たてすべり出し窓等に貼付してありますので、ご確認ください。

□引違い窓等や網戸には、脱落防止のために外れ止め部品を設けています。部品のズレや変形・破損がないか定期的に点検をしてください。(14～16、22～24、34～44頁参照)また、清掃、修繕等の折に外された場合、必ずもと通り調整されているかどうか点検してください。

→もと通りに調整されていない場合は、調整してください。

→調整の方法は、ラベル又は取扱い説明書の方法により行ってください。

→部品等の交換は、故障、脱落などを防ぐため必ずLIXIL製標準部品をご使用ください。

□台風、暴風雨等が予測される場合、必ず出入口や窓が閉まり、施錠されていることを点検してください。

又、台風、暴風雨等が通過後、出入口や窓に不具合がないかどうか点検してください。

→不具合を発見された場合は、応急処置を行い、弊社へご相談ください。

### (3)入居者が行う点検は、管理責任者様が点検事項を指示してください。

### (4)不具合がありましたらご連絡ください。

□入居者から製品の使用にあたって不具合のお申し出があった場合は、早急に弊社へご相談ください。

### (5)メンテナンス、修理は必ず販売店、弊社の地域ごとの営業事業所またはLIXIL修理受付センターへご用命ください。

# お手入れ方法(清掃方法)

いつまでも美しく商品をお使いいただくために、商品の材質・特性に応じた方法で、定期的なお手入れが必要です。

## 1. アルミ・ステンレス製商品のお手入れ

### お手入れはなるべくこまめに

- 長期間、清掃しないままにしておきますと、表面に付着した汚れは、しみや腐食の原因となります。汚れが軽微なうちに清掃してください。清掃の目安は、月に1回程度です。レール部分にたまった砂やゴミをそのままにして使用を続けると、汚れや傷の原因となりますので、なるべくこまめなお手入れをおすすめします。

特に沿岸地域(日本海側では沿岸から離れていても)交通量の多い道路沿い、凍結防止材を使用している地域では、塩分や排気ガスによる汚損が進みやすいので、清掃の頻度をこまめにしてください。

### お手入れ方法

- ①表面についた砂やほこりをていねいに取除きます。隅の清掃は歯ブラシを利用すると便利です。
- ②水でぬらした柔らかい布又はスポンジで全体の汚れを拭き取ります。特に汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた液で汚れを落とし、そのあと水洗いします。
- ③最後にかたく絞った柔らかい布又はスポンジで全体を拭き取ります。



### お手入れのご注意

- 洗剤や薬品は、中性のものを使用してください。酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品、及びエタノール以外の有機溶剤は、アルミサッシやステンレスなどの金属部分を腐食させたり、塗膜はがれを引き起しますので、絶対に使用しないでください。  
気密材や水切材等に溶剤(潤滑剤等)をふきかけますと、部品の破損につながりますので使用しないでください。
- お手入れの際には、柔らかい布又はスポンジなどを使い、ワイヤーブラシやサンドペーパーのご使用はさけてください。
- 表面の光沢が落ちてきたときには、自動車用ワックス(研磨材の少ないもの)を使い、メンテナンスを行ってください。  
光沢が回復します。(ステンレス商品は不可)  
①ホワイト色にはホワイト専用のワックスをお使いください。  
②ブロンズ色にはホワイト以外のワックスをお使いください。  
③ツヤ消しのアルミサッシには表面のツヤにムラができますので、ワックスは使えません。
- ステンレス製金物部品、網戸のステンレス網も環境条件により放置するとサビ発生のおそれがありますので、定期的な(年数回)お手入れをおすすめします。
- 樹脂製部品についても、次頁の樹脂製商品と同様のお手入れをおすすめします。
- 電装部品(電気錠など)が組み込まれている場合には、電装部品に水がかからないようご注意ください。  
水がかかると、故障するおそれがあります。電装部品に不具合が生じた場合には、最寄りの当社営業事業所にご連絡ください。

## 2.樹脂製商品のお手入れ

断熱商品には性能を高めるため、枠及び障子が樹脂でつくられているものがあります。樹脂の中でも特に酸、アルカリに対して強い材質を選択していますが、長く快適に使用していただくために、樹脂製商品に対して注意すべき点があります。

### お手入れはなるべくこまめに

樹脂は、アルミニウムなど他の材質と比べると、傷つきやすい性質があります。レール部分にたまった砂やゴミをそのままにして使用を続けると、汚れや傷の原因となりますので、なるべくこまめなお手入れをおすすめします。

### お手入れは布やスポンジで

傷をさけるため、布やスポンジのような柔らかいものを使い、金属ブラシや金べらは使用しないようにしてください。

### ベンジンやシンナーはさけてください

樹脂は酸、アルカリに強い特性をもっていますが、ベンジン、ガソリン、エーテル、アセトン、シンナーなど有機溶剤は使用しないようにしてください。



### 薬品に対して

塩素系薬品(次亜塩素酸ナトリウムを含む漂白剤・カビ取り剤等)が、サッシに付着したまま放置された場合、表面が変化することがあります。付着した場合はすみやかに洗い落としてください。

### お手入れ方法

- ①表面についた砂やほこりをていねいに取り除きます。隅の清掃は歯ブラシを利用すると便利です。
- ②水でぬらした柔らかい布やスポンジで、全体の汚れを拭き取ります。特に汚れがひどい場合は、中性洗剤、アルカリ性洗剤をうすめた液で落とし、そのあと水洗いします。
- ③最後に、かたく絞った柔らかい布やスポンジで全体を拭き取ります。



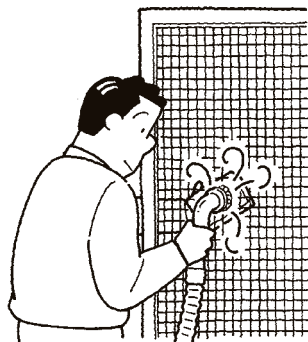
### 3. 網戸商品のお手入れ

#### お手入れはなるべくこまめに

- 網戸は虫の侵入を防ぐように網を設定していますが通風時にゴミやホコリが付着することがあり、それだけ汚れるのも早く風通しも悪くなります。なるべくこまめなお手入れをおすすめします。

#### お手入れ方法

- お手入れのために網戸を外す時は、網戸の頁(34頁～)の注意事項をお守りください。
- ① 外れ止め部品を解除して網戸を外し(ベランダ・廊下がない場合、横引き収納網戸、ロール網戸は取付いた状態で可)庭やベランダでブラシなどで全体を軽くこすります。そしてゴミやホコリを落としてから中性洗剤をスポンジにつけ網の部分に塗るような気持ちでつけます。このとき、力をいれすぎると網が外れることがあります。
- ② 最後に全体を水で洗い、乾かします。
- ③ 網戸を取り付けたら、必ず外れ止め金具が機能するように調整してください。
- 取り外した網戸を元に戻した時には、外れ止め部品が機能しているかを確認してください。
- ④ 網戸が外せない場合は、乾いた大きめのスポンジを網戸の裏側に当て、その部分をブラシのついた吸込み口を取付けた電気掃除機で吸取ってください。
- ⑤ 横引き収納網戸の場合は網をはさみ込み、両側から同時に水ぶきしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめて使用し、その後、洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- ⑥ 横引き収納網戸、ロール網戸の場合は、下枠レール枠に砂や埃がたまらないように掃除機で吸取り、水ぶきをしてください。特に汚れがひどい場合は、歯ブラシ等で汚れを落としてください。汚れを放置しておくとも開閉できなくなります。



#### お手入れのご注意

- 清掃時に網を強く押すと、網が外れることがあります。力を入れすぎないでください。
- 横引き収納網戸・ロール網戸はご自分で取外したり分解しないでください。分解すると開閉操作に支障が生じるおそれがあります。
- 網戸の網や網を押えている網押え部分は、直射日光があたったり、風雨にさらされる等、ご使用いただいている住宅立地条件や自然環境によって、劣化が早く進むことがあります。劣化したままにしておきますと、網が破れたり、網が外れることがあります。時々点検して、網破れ、大きなたるみ、周辺部の外れのほか網押えのひび割れなどないか確認してください。異常があれば、お早めに張替えてください。
- 洗剤や薬品は、中性のものを使用してください。酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品、及びエタノール以外の有機溶剤は、アルミ部分などの金属部分は腐食させたり、塗膜はがれを引き起こしますので、絶対使用しないでください。同様に網戸の網や網を押えている網押えの樹脂部品を溶かしたりします。
- 網戸の網がステンレスの場合、サビにくい材質ですが、環境条件によっては、汚れや塩分やもらいサビを放置するとサビが発生するおそれがあります。「お手入れ方法」を参照の上、汚れの軽いうちに清掃してください。
- 海岸に近い所では年3～4回水洗いをしてください。
- 高圧洗浄機やホース等による散水で窓や網戸を洗い流す場合、水が室内側へ浸入するおそれがありますのでご注意ください。(漏水ではありません。)
- ご使用の初期に、網の糸が端から飛び出す場合があります。その際は、引っ張らずにハサミなどでカットしてください。

## 1. 台風に備えて

台風や暴風雨は、サッシの性能を超える風雨を伴うこともありますので、暴風雨圏に入る前に事前の対策を図ることが必要です。

### 台風がくる前に

- 網戸が飛ばされないよう、網戸の外れ止め部品がかかり網戸が外れないことを確認してください。(網戸の頁(34頁～)を参照願います)
- 窓やドアを閉めて、確実に施錠してください。実施しないと、風にあおられて窓やドアが破損、落下するおそれがあります。
- ベランダに置いてある物が飛ばされて、ガラスが破損したりすると危険ですので、植木や空き箱など室内に入れてください。

### 台風がきたら

- 窓やドアの開閉はできるだけ控えてください。どうしても開閉しなければならない時は、手をはさんだり、ドアがあおられたりしないよう十分に気をつけてください。
- サッシの性能を超えた暴風雨の場合には、風の吹き方によっては雨水が浸入する場合がありますので、このときは、布きれなどを内部からサッシ枠内に詰めるなど対応してください。

## 2. 結露について

窓ガラスやサッシ枠に結露が発生した場合、床や壁の汚損防止、木部の腐食防止のために、十分に拭き取ってください。

結露は、室内外の温度差が大きく室内の湿度が高い場合に、自然現象として季節を問わず発生し、サッシの不具合ではありません。(室内の環境条件によっては、複層ガラスを使用している場合あるいは断熱サッシを使用している場合、結露が発生する場合があります。)

一般的には、秋、冬の季節は暖房により結露が一層発生しやすく、乾燥防止のために加湿器をご使用の場合は、さらに結露が発生しやすい状況になります。特に、新築の家では、使用した木材などの建材に水分が含まれているため、冬の暖房時に、地域によっては乾燥しやすい時期に、その水分が放出されやすい室内環境になり、結露が発生しやすくなります。

結露を完全に無くすことはできませんが、できるだけ抑える方法として、次のようなことを心がけてください。

- 換気をこまめにおこない、水分を含んだ室内の空気を排出すること。
- 水蒸気の発生をへらし空気中の水分を減らすこと。(室内で洗濯物を干さない、灯油ストーブの上でやかんの湯を沸かさない等)

## 3. サッシの気密性とすきま風について

- サッシの気密性は、サッシから出入りする空気量で示し、少ない程性能が良いと言えますが、日本工業規格(JIS)ではこの空気の出入りを認めたものとなっており、出入りを遮断しなければならないとは規程していません。例えば気密性A-4等級のサッシは、室内外の圧力差が10Pa(約1kgf/m<sup>2</sup>)のときに、サッシ面1m<sup>2</sup>当たり1時間に2m<sup>3</sup>以下の空気の出入りが認められています。(サッシ1窓全体の出入り量は、この数値にサッシ面積を掛け算します)さらに、換気扇やレンジフードの使用時は、強制的に空気を室外に排出することになるため、適切な面積の吸気孔がないと室内外に圧力差が生じて、サッシの微小隙間(気密材の接触部や押縁端部等)から入る空気の量が増えることになります。強風時も同様で、サッシに直接風があたり室内外に圧力差が生じた時には、サッシの微小なすきまからの空気の流入が増えることになります。

## 4. サッシの遮音性について

- サッシの遮音性とは、サッシを通して室外から室内へ侵入する音、室内から室外へ漏れる音をどれくらい遮ることができるのかを表す性能であり、音を完全に遮断し、住居内を無音状態にするというものではありません。住居ではサッシ以外に、換気口、換気扇など空気が出入りするところがあり、また、ベランダの有無、ベランダの構造、家具の配置などによっては、同じ遮音性能のサッシが付いたとしても、部屋ごとに騒音レベルが異なります。カタログなどに記載しているサッシの遮音性能値は、サッシ単体の遮音性能のみを測定できる専用の実験室で測定した性能であり、お住まいで実測する数値とは異なります。室内の騒音レベルを低くする簡単な対策としては、室内に厚地のカーテンや絨毯など、吸音効果のあるものを使用するという方法があります。

## 5. サッシ及びサッシ周辺からの音鳴り現象について

- アルミニウムの特性として、太陽の日射熱の影響を受けて部材の温度上昇により熱膨張が発生して部材が伸縮するという特徴があります。また、アルミサッシの構造上、様々な形状の型材や部品にて構成されているため、各部材間のわずかな膨張率の違い等により音(パキパキ・ギシギシ・コーンなど)が鳴ることがあります。さらにアルミサッシに取り合う内装材(木額縁・床材等)の熱伸縮により摩擦・こすれ音が発生することもあります。

## 6. 取扱い上について

### 強風時の障子の開閉について

- テラス部分等に取り付けられている大型の引違い窓や片引き窓では、外部からの強風により障子が枠側に押し付けられ、開閉操作が重くなることがあります。強風時の開閉を極力控えていただくことをおすすめします。(24時間換気をしている場合も同様に発生する場合があります。)

### 換気扇・レンジフード使用時及び強風時の注意

- 換気扇やレンジフードを作動させると、大量の空気を排出させると同時に、ほぼ同量の空気の流入が起こり、サッシから笛鳴りが発生する場合があります。この現象は、建物全体の気密性が高く、かつ流入する空気の導入口が設けられていなかったり、導入口の大きさが適切でない場合に、サッシの小さなすきまから高速で空気が流入することにより生じる現象で、サッシの欠陥ではありません。適切な吸気口の設定や、窓を少し開けるなどの対応で笛鳴りは防げますので、外気の取り入れ口を確保して頂けますようお願いいたします。(24時間換気している場合にも同様に笛鳴りが発生する場合がありますので同じように対応して頂けますようお願いいたします。)

### ガラスの取扱い(破損時の入れ替えに際して)

- 窓に使用されるガラスの種類と厚さは、サッシに要求される諸性能に応じて決定されています。万一、ガラスが破損又は、ヒビ割れた場合は安全のため、速やかに入れ替えてください。その際、ガラスは必ず以前から入っているものと同等のものをに入れてください。

# 商品保証について

本書は、当社の商品に関し、ここに記載の保証期間、保証内容の範囲において無料修理を行なうことをお約束するものです。保証期間中に故障・損傷などの不具合（以下「不具合」といいます）が発生した場合には、お取扱いの建築会社様、工務店様、販売店様又は、当社営業事業所にご相談ください。

## ■対象商品

PRESEA-H

## ■保証期間

建築会社様よりの引き渡し日（注1、注2）から2年間（電装・排煙開閉装置部品については1年間）。ただし、商品の不具合による雨水浸入については10年間。

注1）改修工事の場合は、改修部分の工事完了の日とします。

注2）分譲住宅（建売住宅）・分譲マンションの場合は、工事完了後建築主様への引き渡し日とします。

## ■保証内容

取扱説明書、本体ラベル又はその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に不具合が発生した場合には、下記に例示する免責事項を除き無料修理いたします。

なお、強風雨時に、サッシ下枠に雨水がたまることがあります。これは商品上の特性であり不具合ではありません。不具合といえる雨水浸入は、サッシ下枠を超えて室内に雨水が流れ出したり、あふれ出たりすることです。

## ■免責事項

保証期間内でも、次の様な場合には有料修理となります。

- ①当社の手配によらない第三者の加工、組立て、施工、管理、メンテナンスなどに起因する不具合（例えば、海砂や急結材を使用したモルタルによる腐食。当社推奨以外のクリーニング剤を使用したことによる変色や腐食。工事中の養生不良に起因する変色や腐食など）
- ②表示された商品の性能を超えた性能を必要とする場所に取付けられた場合の不具合
- ③建築躯体の変形など商品以外の不具合に起因する商品の不具合
- ④商品又は部品の経年変化（使用に伴う消耗、摩耗など）や経年劣化（樹脂部品の変質、変色など）又はこれらに伴うさび、かび又はその他の不具合
- ⑤商品周辺の自然環境、住環境などに起因する結露、腐食又はその他の不具合（例えば、塩害による腐食。大気中の砂塵、煤煙・各種金属粉、亜硫酸ガス、アンモニア、車の排気ガスなどが付着して起きる腐食。異常な高温・低温・多湿による不具合など）
- ⑥商品又は部品の材料特性に伴う現象（例えば木製品の反り、干割れ、色あせ、木目違い、節抜け、樹液のにじみ出しなど）
- ⑦天災その他の不可抗力（例えば、暴風、豪雨、高潮、地震、落雷、洪水、地盤沈下、火災など）による不具合又はこれらによって商品の性能を超える事態が発生した場合の不具合
- ⑧実用化されている技術では予測することが不可能な現象又はこれが原因で生じた不具合
- ⑨犬、猫、鳥、鼠などの小動物に起因する不具合
- ⑩引き渡し後の操作誤り、調整不備又は適切な維持管理を行わなかったことによる不具合（例えば、クレセント・錠などの部品が、使用中にがたついたり異音などが発生し、異常が生じたまま使用し続けたことが原因で発生した傷・破損などの不具合）
- ⑪お客様自身の組立て、取付け、修理、改造（必要部品の取外しを含む）に起因する不具合
- ⑫本来の使用目的以外の用途に使用された場合の不具合又は使用目的と異なる使用方法による場合の不具合
- ⑬犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合

※保証期間経過後の修理、交換などは有料とさせていただきます。

※本書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、当社営業事業所にお問合わせください。

※BL認定商品については別途定められた保証期間・保証内容・免責事項によります。

※本商品保証は、日本国内においてのみ有効です。

# BL認定品の商品保証について

本書は、当社の商品に関し、ここに記載の保証期間、保証内容の範囲において無料修理を行うことをお約束するものです。保証期間中に故障・損傷などの不具合（以下「不具合」といいます）が発生した場合には、お取り扱いの建築会社様、工務店様、販売店様、又は、当社営業事務所にご相談ください。

## ■保証期間・保証内容

建築会社様よりの引き渡し日（注1、注2）から2年間（電装部品については1年間）。

ただし、商品の不具合による雨水浸入については10年間。

（注1）改修工事の場合は、改修部分の工事完了の日とします。

（注2）分譲住宅（建築住宅）・分譲マンションの場合は、工事完了後、建築主様への引き渡しの日とします。取扱い説明書、本体ラベルまたはその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に不具合が発生した場合には、下記に例示する免責事項を除き無料修理いたします。

なお、強風雨時、サッシ下枠に雨水がたまることがあります。これは商品上の特性であり不具合ではありません。不具合といえる雨水浸入は、サッシ枠を超えて室内に雨水が流れ出したり、あふれ出たりすることです。また、特定機能については下記のごとく別途定められています。

ただし、ドア・クローザ、錠前については保証期間、保証内容、免責事項が別途定められています。

| 品 目 | 特定機能         | 保証期間 |
|-----|--------------|------|
| サッシ | 雨水の浸入を防止する機能 | 10年  |

## ■免責事項

保証期間内でも、次の様な場合には有料修理となります。

- ①住宅用途以外で使用した場合の不具合
- ②当社の手配によらない第三者の加工、組み立て、施工、管理、メンテナンスなどに起因する不具合  
（例えば、海砂や急結材を使用したモルタルによる腐食。中性洗剤以外のクリーニング剤を使用したことによる変色や腐食。工事中の養生不良による変色や腐食など）
- ③表示された商品の性能を超えた性能を必要とする場所に取り付けられた場合の不具合
- ④商品又は部品の経年変化（使用に伴う消耗・摩耗など）や経年劣化（樹脂部品の変質・変色など）又はこれらに伴うさび、かび又はその他類似の不具合
- ⑤商品周辺の自然環境、住環境に起因する結露、腐食又はその他の不具合  
（例えば、塩害による腐食。大気中の砂塵、煤煙、各種金属粉、亜硫酸ガス、アンモニア、車の排気ガスなどが付着して起きる腐食。異常な高温・低温・多湿による不具合など）
- ⑥天災その他の不可抗力（例えば、暴風、豪雨、高潮、地震、落雷、津波、噴火、洪水、地盤沈下、火災など）による不具合又はこれらによって商品の性能を超える事態が発生した場合の不具合
- ⑦犬、猫、鳥、鼠などの小動物に起因する不具合
- ⑧引き渡し後の操作誤り、調整不備または適切な維持管理を行なわなかったことによる不具合
- ⑨お客様自身の組立て、取付け、修理、改造（必要部品の取外しを含む）に起因する不具合
- ⑩本来の使用目的以外の用途に使用された場合の不具合又は使用目的と異なる使用方法による場合の不具合
- ⑪犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合
- ⑫建築躯体の変形など住宅部品本体以外の不具合に起因する当該住宅部品の不具合。

\*保証期間経過後の修理、交換などは有料とさせていただきます。

\*本書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、当社営業事業所にお問い合わせください。

\*BL認定品の取り替え部品の供給については、生産中止後10年間と致します。

\*本商品保証は、日本国内においてのみ有効です。

\*BL認定品には、部品及び施工の瑕疵並びにその瑕疵に起因する損害に係る優良住宅部品瑕疵担保責任保険・損害賠償責任保険が付されています。

# 引違い窓の取扱い

## ▲ 注 意

- 外れ止め部品が正しくかかっていないと、ガラス障子が窓枠から外れて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがありますので、下記事項をお守りください。
  - ・ お手入れなどでガラス障子を外し、再び窓枠に取付けるときは、表示ラベルに従って外れ止め部品を必ずかけてください。
  - ・ 外れ止め部品が正しくかかっているか、ズレや破損がないか時々点検してください。
- 窓を閉めてクレセントを施錠してください。サッシ諸性能（耐風圧、気密、水密等）の保持ができず、強風時に障子が脱落するおそれがあります。
- 開閉操作は引手部に手をかけてゆっくり行ってください。急激な操作は思わぬ事故や部品破損、ケガにつながります。

## お願い

### 【クレセント操作について】

- クレセントを下に約180°回転させてから障子の開閉を行ってください。実施しないと障子に当たり型材にキズを付けたり、部品が破損したりします。（図1）  
（ロック付、鍵付はその解除を先に操作してください。）
- ダブルロックの場合ボタンが解除（開の位置）されていることを確かめてからハンドルを回してください。また、鍵付の場合も鍵が解除されていることを確かめてからハンドルを回してください。  
解除されていない状態でハンドルを回すと故障の原因になります。

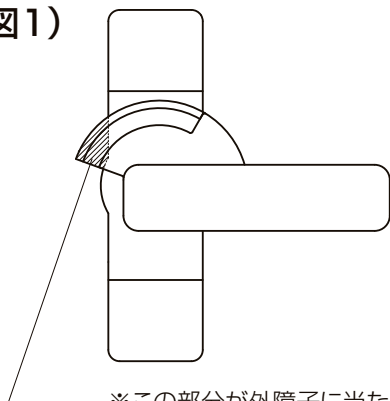
### 【障子開閉について】

- 障子を開けるときに障子ストッパーに強い衝撃を与えないでください。障子や部品の変形・破損が生じたり、それによるクレセントの施解錠が困難になるなどのおそれがあります。

### 【お手入れについて】

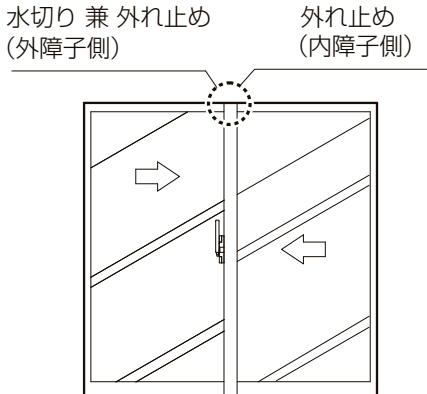
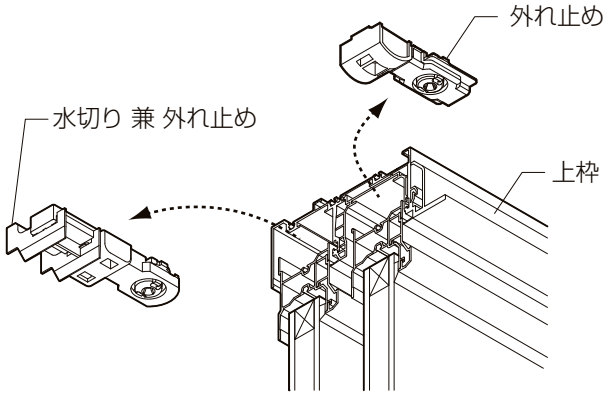
- 下枠にゴミなどをためないよう時々清掃してください。水抜き穴がつまり漏水したり、戸車が破損するおそれがあります。

（図1）



## ■外れ止め部品のセット

●外れ止め部品は、障子の落下を防止するために取付けられている部品です。必ずセットしてください。

| 外れ止め位置                                                                            | 商品形状と部位                                                                            | セット方法                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
|  |  | <p>※商品に本体表示ラベルを貼付してありますので、よくお読みのうえその指示を必ずお守りください。</p> |

## ■本体表示ラベルの表示例

**▲ 注意**

障子の落下防止のため、外れ止めを必ず下図の指定位置にセットしてください。

上外れ止めセット位置

下外れ止め位置

切り欠き

**障子外し方・外れ止めの調整**

①上外れ止めの④ねじを左90°回転させ端に移動後、内障子を外します。

上外れ止め 解除方向

④ねじ

④ねじ ロック状態

②外障子下框の下外れ止めを、召合せ下部の切り欠きに合せ、外障子を外します。

下外れ止め

切り欠き

外障子

下枠

③障子建て込み後、上外れ止めを上図の指定位置に戻し、④ねじを右90°回転し固定します。

④④ねじを回し、上外れ止めのA寸法を3mm以下にします。

上外れ止め

A

障子

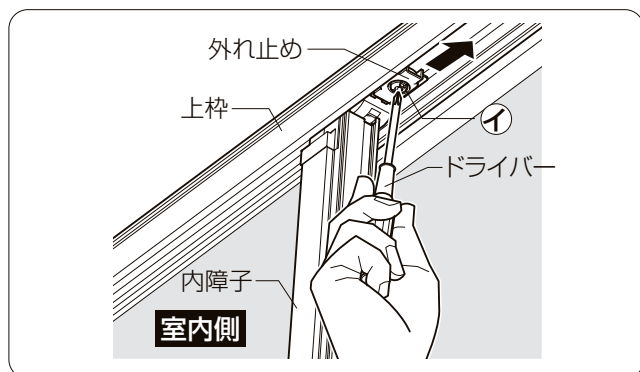
## ■障子の外し方(引違い窓(内外はずし))

### ▲注 意

- 障子を外す場合は極力専門業者さまへ依頼してください。ガラスの仕様・サイズによって、障子の重量が100kgを超える場合があります、人身事故や物損事故につながるおそれがあります。
- 障子建込み後、外れ止めが㊦ねじで、水切り兼外れ止めが㊧ねじで固定されていることを確認してください。ガラス障子が窓枠から外れて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

- 障子を外すときは、以下の手順で実施してください。
- 障子の建込みは、以下と逆の手順で実施してください。

①上枠の外れ止めを㊦ねじをゆるめて、室内側から見て右側へ移動します。



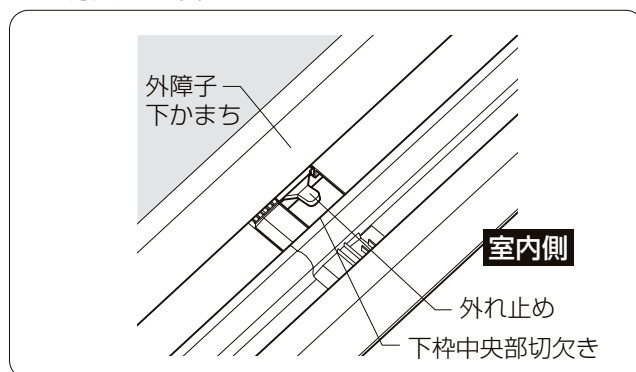
②内障子を持上げて室内側へ外します。



③上枠の水切り兼外れ止めを㊧ねじをゆるめて、室内側から見て右側へ移動します。



④外障子下かまち中央の外れ止めを下枠中央の切欠きに合わせます。



⑤外障子を持上げ、室外側へ外します。

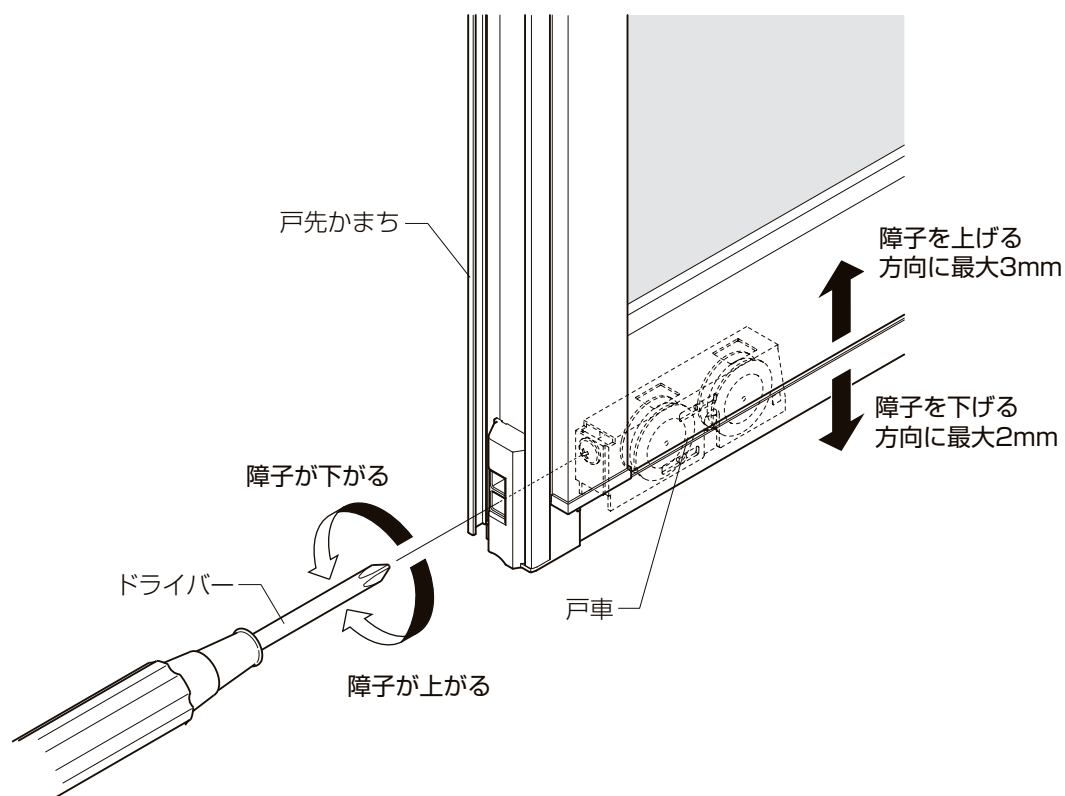


## ■障子の建付け調整

- 調整は戸先かまち側の戸車で行ってください。

## ■戸車調整方法

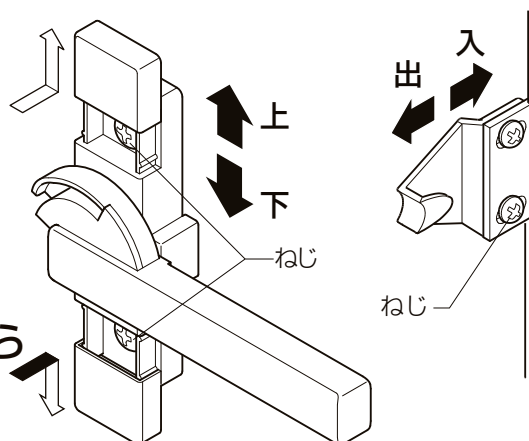
- 下図のように戸先かまちからドライバーを差込み、戸車調整ねじを回して調整します。



## ■クレセントのかかり調整

- クレセントのかかりが悪くなら、クレセント本体のキャップをずらしてねじをゆるめ上下調整するか、クレセント受のねじをゆるめて、出入調整をすることで、クレセントのかかりを調整することができます。

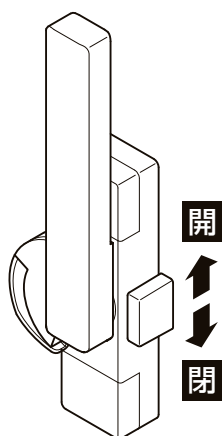
キャップを押しながら  
ずらす



## ■クレセントの操作と種類

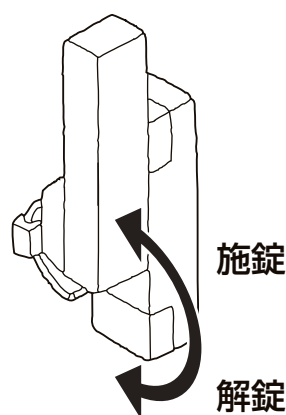
### ■ダブルロック

- クレセントの横についているボタンを上下に動かすことにより、ハンドルの回転を止めたり、動かしたりすることができるタイプです。



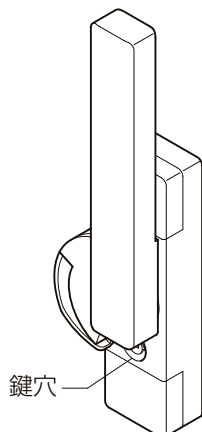
### ■シングルロック

- ハンドルを約180°回転させることにより、施錠解錠することができるタイプです。(オプション)



### ■鍵付

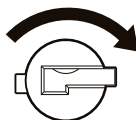
- クレセントの鍵穴に鍵を挿入して操作することにより、ハンドルの回転を止めたり、動かしたりすることができるタイプです。(オプション)



- 鍵付クレセントの施解錠は、下記に示す要領にて行ってください。

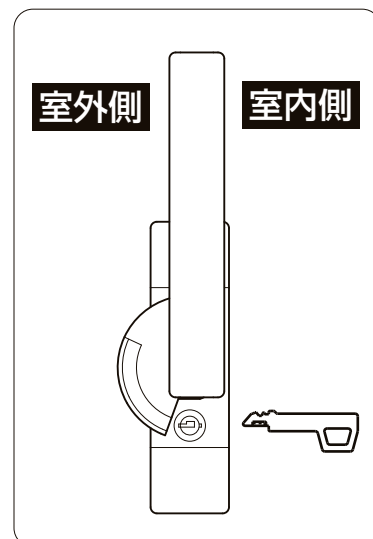
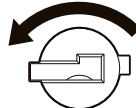
#### ●鍵をかけるとき

- 鍵を差込み時計まわりにまわす。



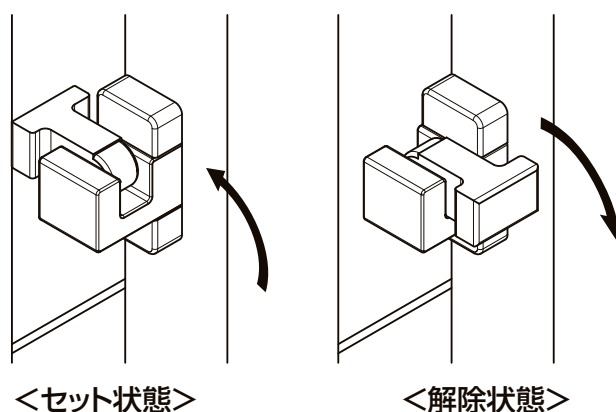
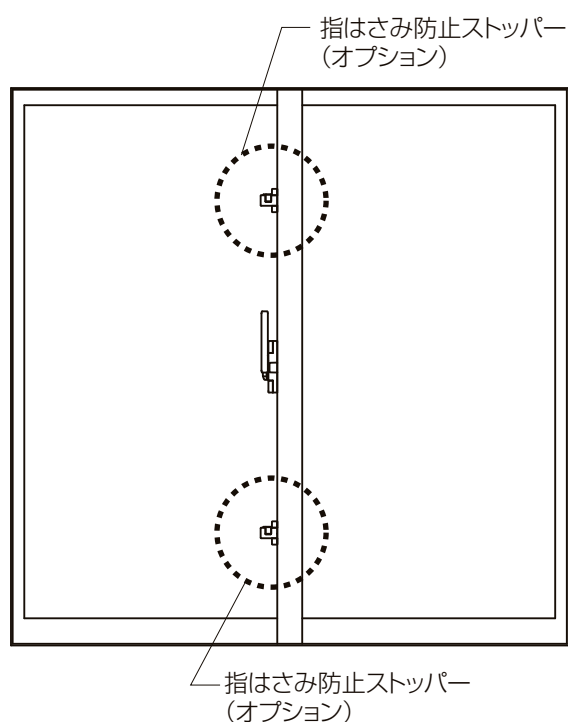
#### ●鍵をあけるときの

- 鍵を差込み反時計まわりにまわす。



お願い

- クレセントを解錠したら指はさみ防止ストッパーをセット状態にしてお使いください。また清掃時や網戸使用時は、解除状態でお使いください。
- 上下2ヶ所付の場合は、セット時、解除時とも、2ヶ所のストッパー部は同じ状態で使用してください。(どちらか一方でのご使用はおやめください。)
- 障子を開閉する際強い衝撃を与えないでください。部品や形材が破損するおそれがあります。



- 外障子を開けて網戸を使用するときは、解除状態で使用してください。虫などが侵入するおそれがあります。
- 戸先かまちと召合かまちの間および戸先かまちとたて枠の間に約25mmのクリアランスをつくり、指はさみによるケガに配慮しています。

## ▲ 注 意

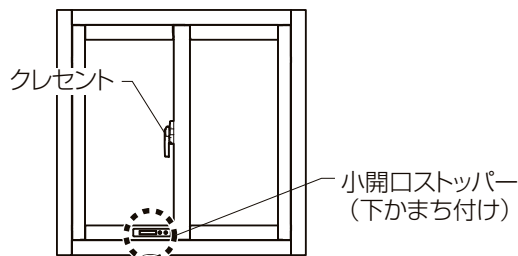
- 室外へ出られる際は、操作部が解除状態にあることを確認してください。使用状況によっては、ストッパーがセットされて室外側に閉じ込められることがありますので、特に小さなお子さまが触れることのないよう、十分にご注意ください。

## ● お願い

- 障子を開閉する際、強い衝撃を与えないでください。部品が破損するおそれがあります。
- 小開口ストッパーは、換気のため窓を少し開けてストップさせる部品です。就寝時、外出時は、必ずクレセントを施錠してお使いください。
- お掃除の際などに操作部が完全に回っている状態であることを定期的を確認してください。

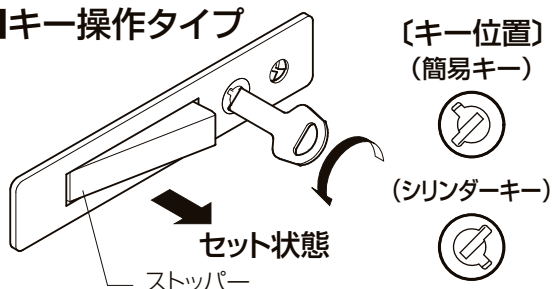
## ■ 小開口ストッパー（オプション）

- 障子の開口寸法を規制する部品です。

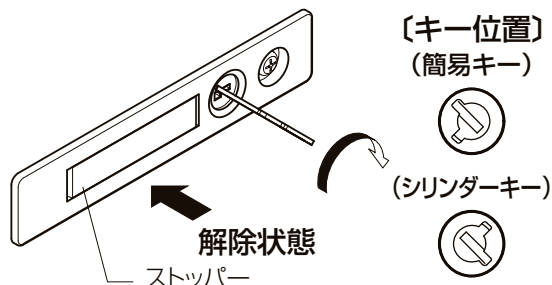


## ● 操作方法

### ■ キー操作タイプ

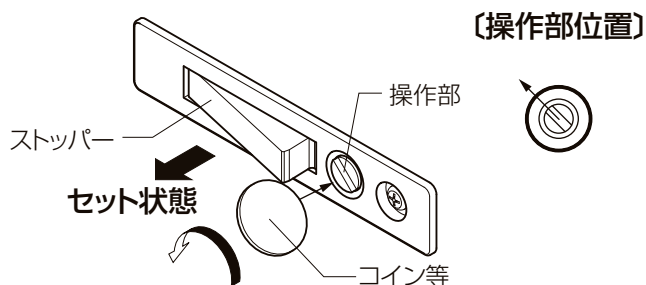


- キーを差し、左に回すとストッパーが起き、セット状態となります。セット後はキーを抜き、なくさないように保管ください。

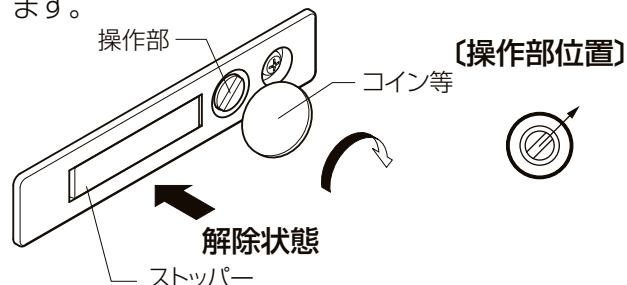


- 右に回すとストッパーが戻り、解除状態になります。

### ■ コイン操作タイプ



- コイン等を使用し、操作部を左にカチッと音がするまで回すとストッパーが起き、セット状態となります。



- 操作部を右にカチッと音がするまで回すとストッパーが戻り、解除状態になります。

## ▲ 注 意

- 使用状況によっては、小開口ストッパーが解除状態となり開口制限ができなくなったり、セットされて室外側に閉じ込められることがありますので、下記事項をお守りください。
  - ・ セットや解除の際は、操作部を中間位置の状態にせず、カチッと音がするまで回してください。
  - ・ 急激な障子の開閉はせず、引手部に手をかけてゆっくり行ってください。

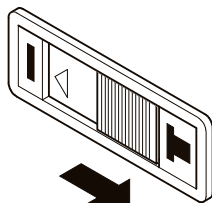
## 〔中間位置の状態〕



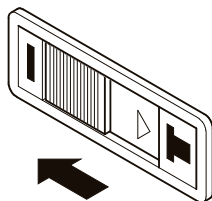
## ■外部操作連動タイプ

〔室外側〕

セット状態

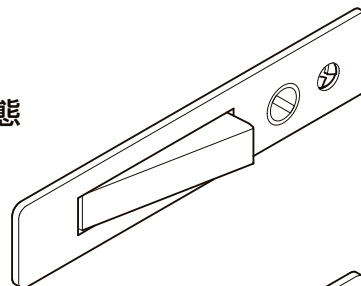


解除状態

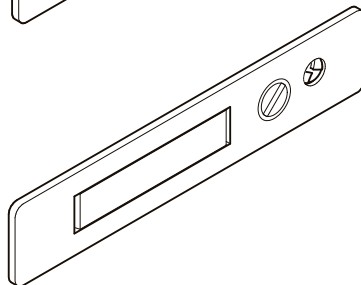


〔室内側〕

セット状態



解除状態



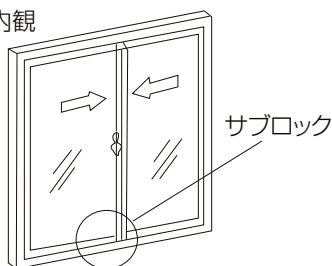
### 【サッシ金物の鍵について】

クレセントや小開口ストッパー等のサッシ金物の鍵は、堅固な施錠を保証するものではありません。いたずらや不正な解錠及びキーを完全に差し込まずに無理な力でキーを回す等の誤操作では、開いてしまう場合があります。

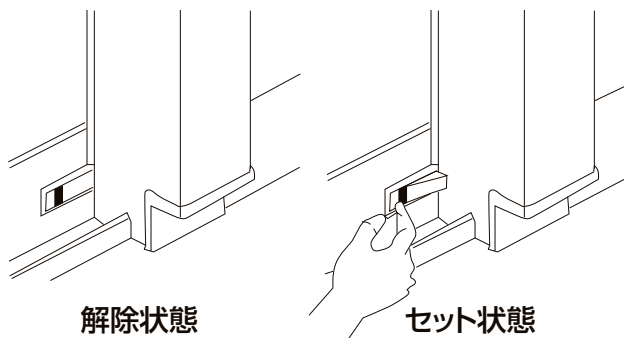
## 引違い窓・片引き窓・両袖片引き窓 サブロックの取扱い

- サブロックは、必ずクレセントと併用して使用してください。
- お出かけや就寝の際は、クレセントを施錠するとともに、サブロックもセットしてください。

内観



### ■ロック機構なし(下かまち付け)



- ①サブロックを押すことでセット状態にできます。
- ②セット状態を解除するときは、起き上がっている部分を押ししてください。

# 片引き窓、両袖片引き窓の取扱い

## ▲ 注 意

- 外れ止め部品が正しくかかっていないと、ガラス障子が窓枠から外れて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがありますので、下記事項をお守りください。
  - ・ お手入れなどでガラス障子を外し、再び窓枠に取付けるときは、表示ラベルに従って外れ止め部品を必ずかけてください。
  - ・ 外れ止め部品が正しくかかっているか、ズレや破損がないか時々点検してください。
- 窓を閉めてクレセントを施錠してください。サッシ諸性能（耐風圧、気密、水密等）の保持ができず、強風時に障子が脱落するおそれがあります。
- 開閉操作は引手部に手をかけてゆっくり行ってください。急激な操作は思わぬ事故や部品破損、ケガにつながります。

## お願い

### 【クレセント操作について】

- クレセントを下に約180°回転させてから障子の開閉を行ってください。実施しないと障子に当たり型材にキズを付けたり、部品が破損したりします。（図2）  
（ロック付、鍵付はその解除を先に操作してください。）
- ダブルロックの場合ボタンが解除（開の位置）されていることを確かめてからハンドルを回してください。また、鍵付の場合も鍵が解除されていることを確かめてからハンドルを回してください。  
解除されていない状態でハンドルを回すと故障の原因になります。

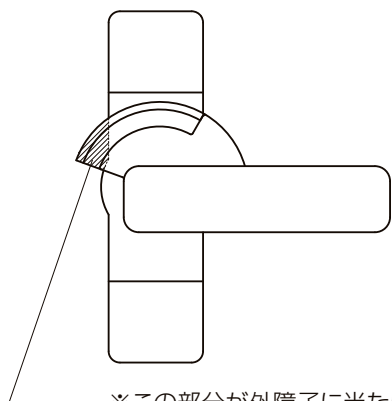
### 【障子開閉について】

- 障子を開けるときに障子ストッパーに強い衝撃を与えないでください。障子や部品の変形・破損が生じたり、それによるクレセントの施解錠が困難になるなどのおそれがあります。

### 【お手入れについて】

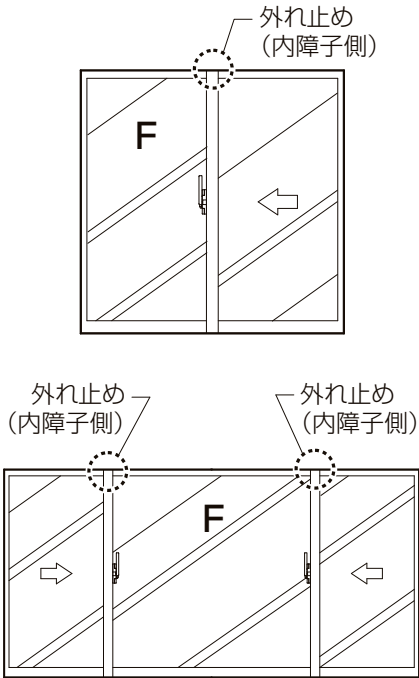
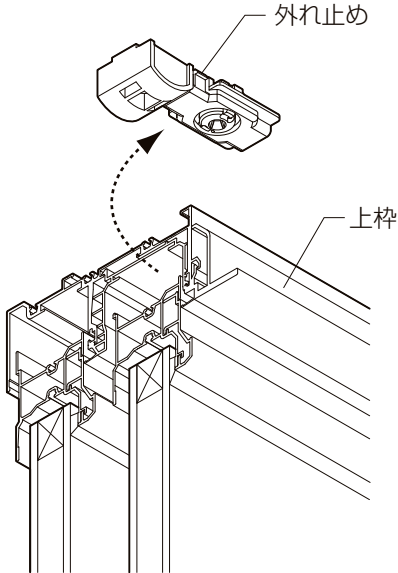
- 下枠にゴミなどをためないよう時々清掃してください。水抜き穴がつまり漏水したり、戸車が破損するおそれがあります。

（図2）



## ■外れ止め部品のセット

●外れ止め部品は、障子の落下を防止するために取付けられている部品です。必ずセットしてください。

| 外れ止め位置                                                                                                                                                  | 商品形状と部位                                                                                                   | セット方法                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
|  <p>外れ止め<br/>(内障子側)</p> <p>外れ止め<br/>(内障子側)</p> <p>外れ止め<br/>(内障子側)</p> |  <p>外れ止め</p> <p>上枠</p> | <p>※商品に本体表示ラベルを貼付してありますので、よくお読みのうえその指示を必ずお守りください。</p> |

## ■本体表示ラベルの表示例

**▲ 注意**  
障子の落下防止のため、外れ止めを必ず下図の指定位置にセットしてください。

上外れ止めセット位置

上外れ止めセット位置

**障子外し方・外れ止めの調整**

①上外れ止めの④ねじを左90°回転させ端に移動後、内障子を外します。

上枠

上外れ止め 解除方向  
④ねじ

④ねじ ロック状態

②障子建て込み後、上外れ止めを上図の指定位置に戻し、④ねじを右90°回転し固定します。

③④ねじを回し、上外れ止めのA寸法を3mm以下にします。

上外れ止め A 障子

## ■障子の外し方(片引き窓、両袖片引き窓(内はずし))

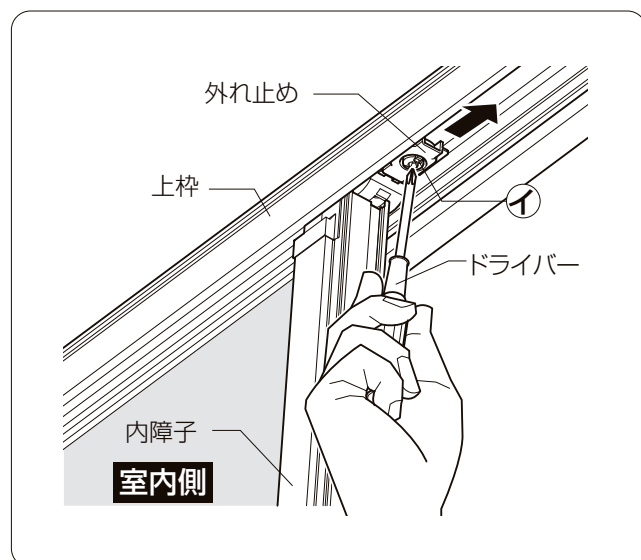
### ▲ 注 意

- 障子を外す場合は極力専門業者さまへ依頼してください。ガラスの仕様・サイズによって、障子の重量が100kgを超える場合があり、人身事故や物損事故につながるおそれがあります。
- 障子建込み後、外れ止めが正しい位置に、ねじで固定されていることを確認してください。ガラス障子が窓枠から外れて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

- 障子を外すときは、以下の手順で実施してください。
- 障子の建込みは、以下と逆の手順で実施してください。

①上枠の外れ止めを①ねじをゆるめて、障子を閉める方向へ移動します。

②内障子を持上げて室内側へ外します。



- 障子の建付け調整、クレセントのかかり調整、クレセントの操作と種類、小開口ストッパーの取扱い、サブロックの取扱いは引違い窓を参照してください。

# たてすべり出し窓の取扱い

## ▲ 注 意

- 障子の開閉時は、障子が動き出したら、枠と障子の間で指をはさまないように、フリクションステーまたはアームストッパーから手を離してください。手や指をはさみ、思わぬケガにつながるおそれがあります。
- 風の強いときは窓を閉めて、必ず錠(ハンドル)をかけてください。風で障子が動くため、錠をかけないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損・落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。
- 清掃などの必要があるときを除いて、障子は全開しないでください。風で障子が動くため急激な開閉で衝撃を受け、破損・落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

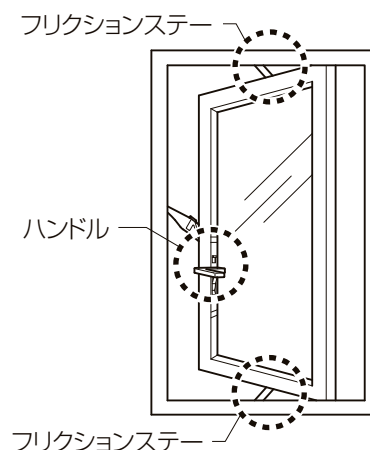
## お願い

- 障子を開けたときは必ず小開口ストッパーで固定してください。突風により閉まる場合があります。
- 障子を全開するときは、ハンドルまたは把手(オプション)をしっかり持って行ってください。風にあおられることがあります。
- 障子を閉めるときは操作ボタンを指で押し下げてハンドルを引いてください。障子が動き出したら操作ボタンから指を離してください。操作ボタンを押し下げたままハンドルを動かすと障子や金物が破損するおそれがあります。
- 障子を閉めるときは、ハンドルを水平に保ったまま(開位置)閉めて、障子が枠のパッキン材に当たってからハンドルを閉位置にしてください。ハンドルやサッシが破損するおそれがあります。
- 障子を開閉するときは、サブロック(オプション)を解除して行ってください。サブロックが破損するおそれがあります。

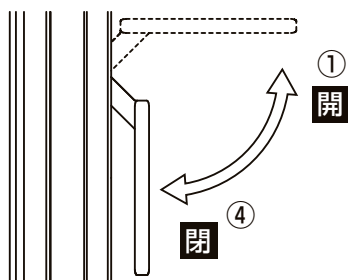
## ■ 障子の開閉

### ■ 換気時(通常開閉)

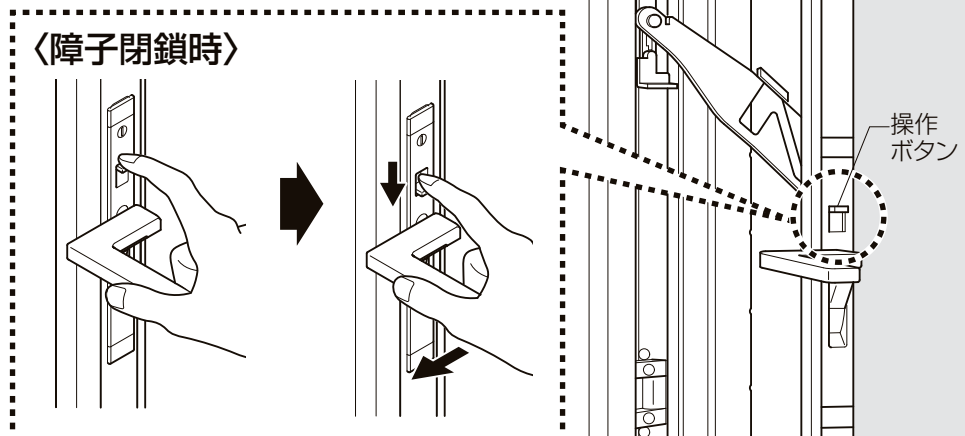
- ① ハンドルを上 $90^{\circ}$ 回してください。  
(ロックが解除され、障子が開閉可能になります。)
- ② ハンドルを持ち障子を押出してください。(小開口ストッパーが働き、設定された有効開口(戸先側約60mm)で障子がストップし、固定されます。)
- ③ 障子を閉めるときは操作ボタンを指で押し下げてハンドルを引いてください。障子が動き出したら操作ボタンから指を離し、障子を閉めてください。
- ④ 障子を閉めたら、必ずハンドルを下向きにしてロックしてください。



## ■ハンドル



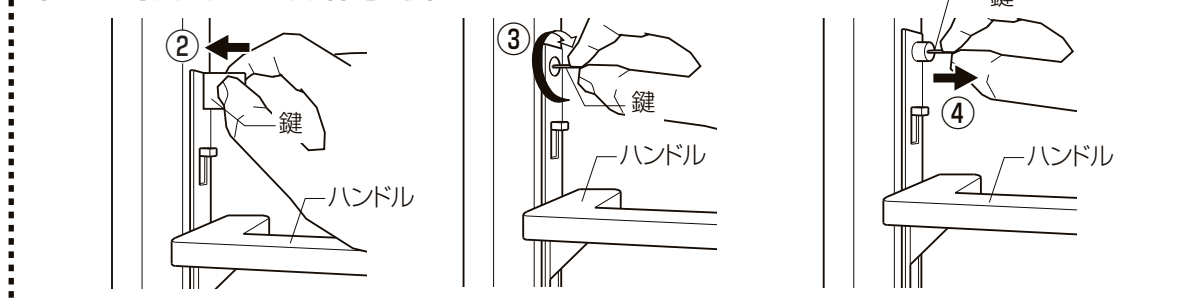
## ■小開口ストッパー一体化ハンドル



## ■全開時(清掃などで小開口ストッパーを解除する場合)

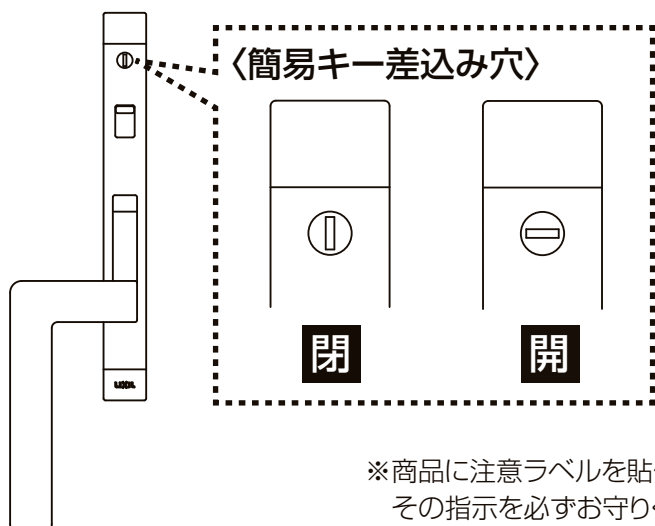
- ①ハンドルを上90°回してください。  
(ロックが解除され、障子が開閉可能になります。)
- ②全開用簡易キーを差し込みます。
- ③差し込んだ簡易キーを90°回してください。
- ④簡易キーを手前に引いた状態のまま障子を開けてください。
- ⑤障子を閉めるときはハンドルを水平に保ったまま閉めてください。  
(操作ボタンを押し下げる必要はありません。)
- ⑥障子を閉めたら、必ずハンドルを下向きにしてロックしてください。

### 〈全開用簡易キー操作手順〉



## ■小開口ストッパー一体化ハンドル

## ■全開用簡易キー



※商品に注意ラベルを貼付してありますので、その指示を必ずお守りください。



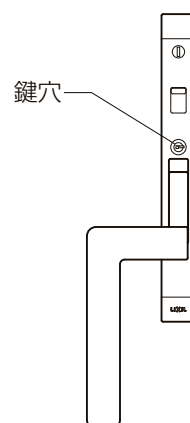
### ▲ 注意

風が強いときは窓を全開しないでください。  
風にあおられて、窓やガラスが落下するおそれがあります。

## ■ハンドルの種類(オプション)

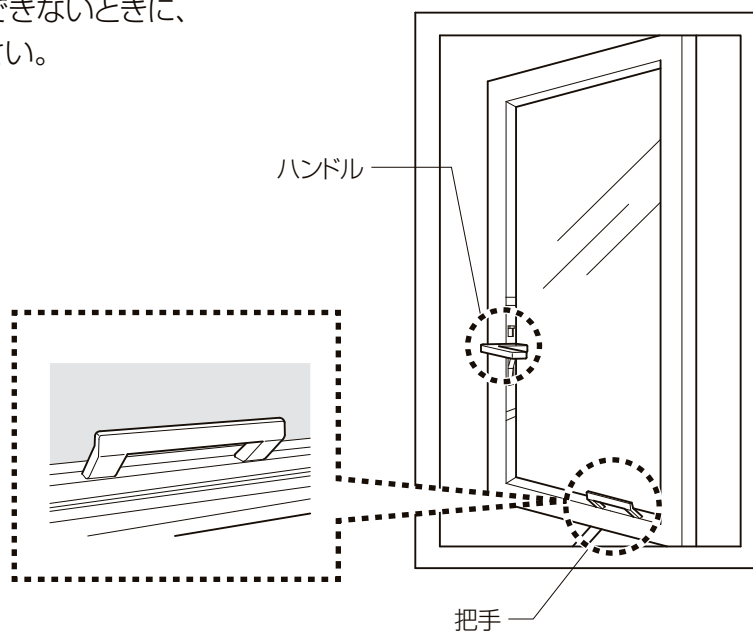
### ■鍵付ハンドル

- ハンドルの鍵穴に鍵を挿入して操作することにより、ハンドルの回転を止めたり、動かしたりすることができるタイプです。



## ■把手(オプション)の操作方法

- 窓サイズが大きいときに障子下に取り付けます(オプション)。障子全開時にハンドルを持って操作ができないときに、この把手を握って開閉操作をしてください。



## ■サブロック(オプション)の操作方法

- ①ロック部の操作ボタンを押し下げることでロック機能が働きます。
- ②ロックを解除するときは、操作ボタンを上に戻します。

お願い

- 障子を開閉するときは、サブロックを解除した状態で行ってください。サブロックが破損するおそれがあります。



## ■非常用進入口の操作方法

### ■室外から操作するとき

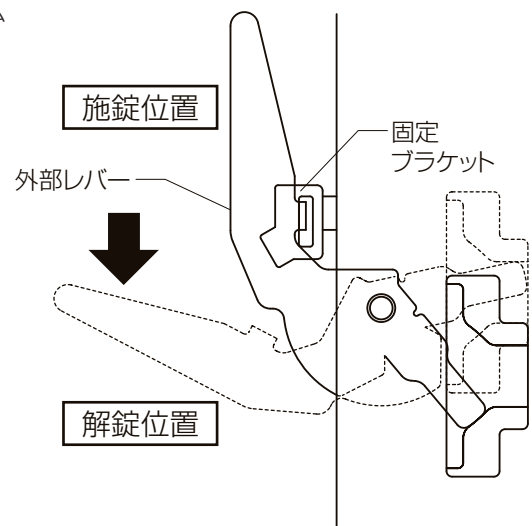
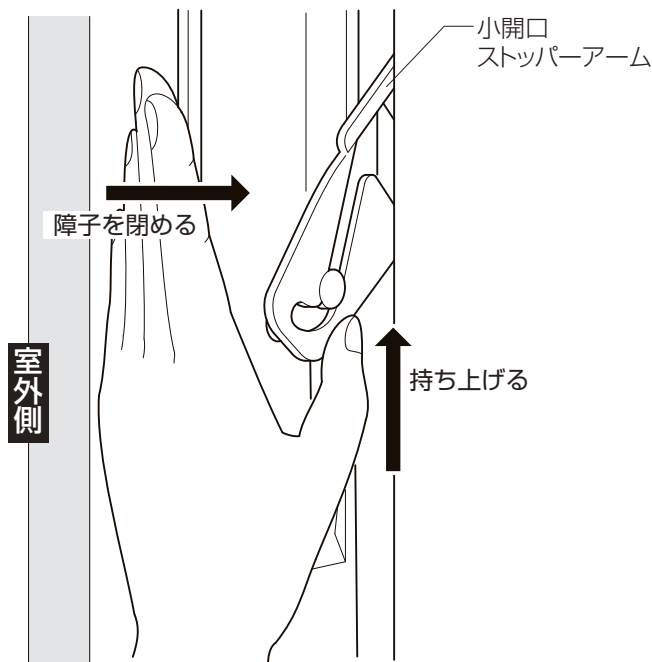
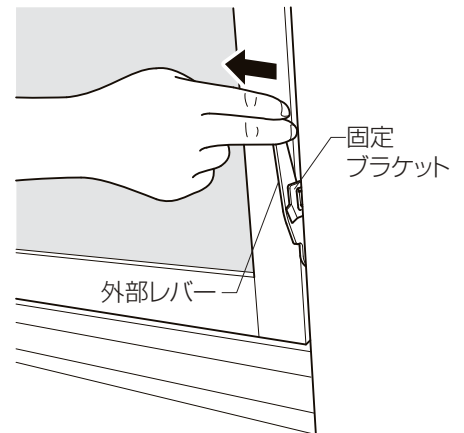
#### ●開けるとき

(1) 障子が閉まっている場合

- ① 外部レバーを少し横に傾けて固定ブラケットから外します。
- ② 真下方向(↓)に止まるまで下げてください。

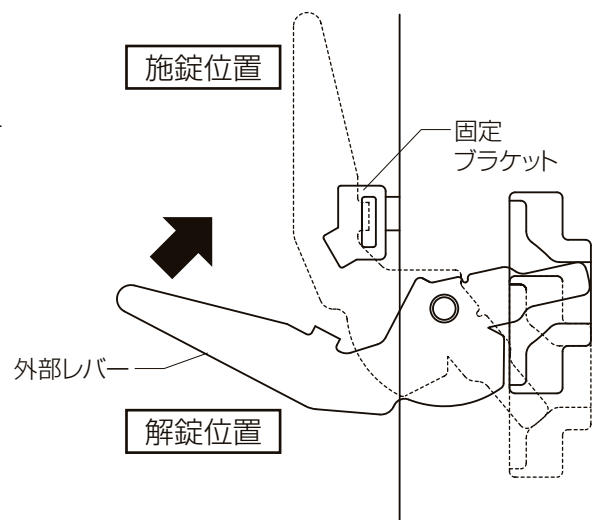
(2) 障子が開いている場合(換気状態)

- ① 外部から小開口ストッパーアームを持ち上げて障子を押して、一旦障子を閉めます。
- ② 外部レバーを少し横に傾けて固定ブラケットから外します。
- ③ 真下方向(↓)に止まるまで下げてください。



#### ●閉めるとき

- ① 障子を閉めてください。
- ② 障子を閉めた状態に保ったまま、外部レバーを斜め上方向(↗)に止まるまで押し上げてください。
- ③ 固定ブラケットで外部レバーを固定してください。

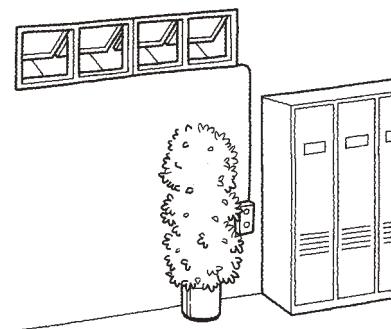


# 突出し窓（排煙オペレーター 隠蔽）の取扱い

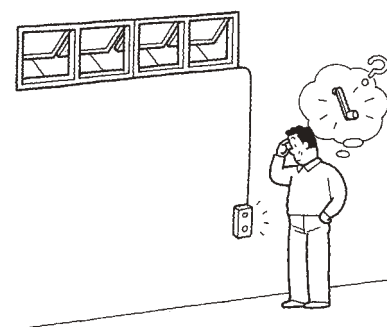
## ▲ 注 意

- 風の強いときは窓を閉めて、必ず錠をかけてください。錠をかけないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損・落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

- ハンドルボックスの周囲には、物を置かないでください。非常時の解放操作が遅れてしまうおそれがあります。

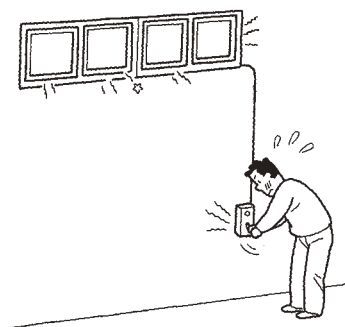


- ハンドルは、いつでも使えるよう保管場所を決めて保管してください。



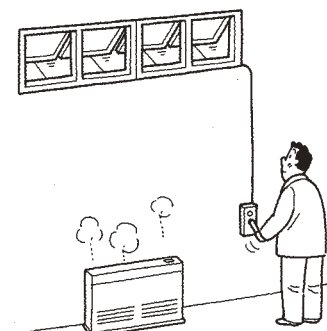
## お願い

- 閉鎖操作時にハンドルレバーの回転が重くなったら、それ以上回さないでください。開閉不良や部品の破損するおそれがあります。



## ■定期点検のお願い

- オペレーター排煙窓は、室内の煙などの排煙を目的とした非常開放用窓ですので、1カ月に1度を目安に作動確認を行ってください。  
よって、オペレーター排煙窓は非常時開放用のため、1日に何回も開閉する換気窓としての使用には適しません。
- 浴場、プールなどに使用されている場合は、環境条件により、装置のサビ、劣化が早く進みます。定期的な点検（月1回程度）や清掃を行なってください。
- オペレーターは、保証期間が1年になっていますので、メンテナンス契約をお勧めします。当社営業事業所へご相談ください。

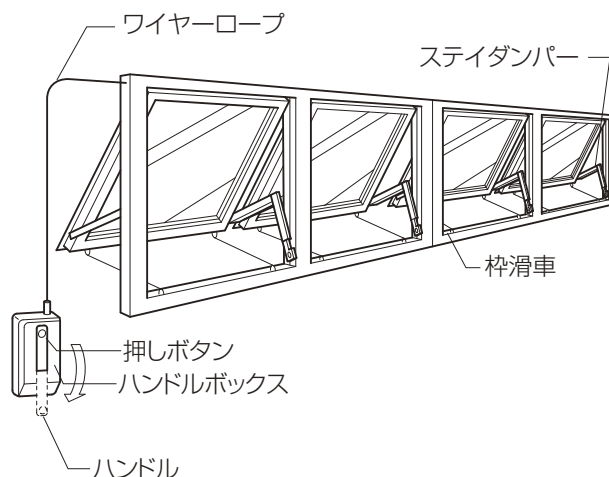
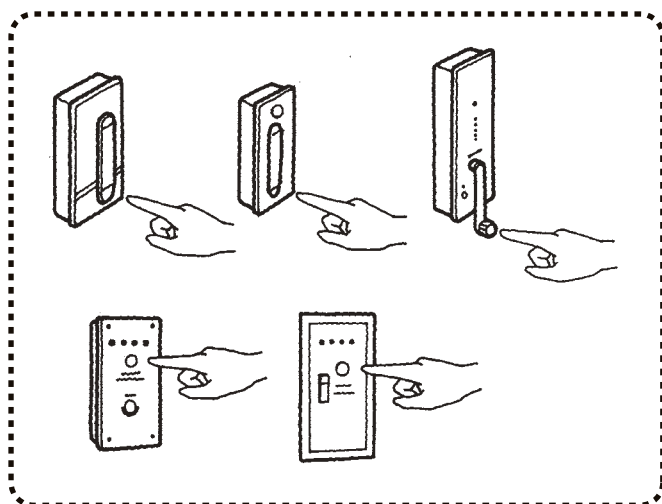


※下記ハンドルボックスは代表形式です。  
詳細は各オペレーター業者から配布されます取扱い説明書をご覧ください。

## ■障子の開閉

### ■開放操作

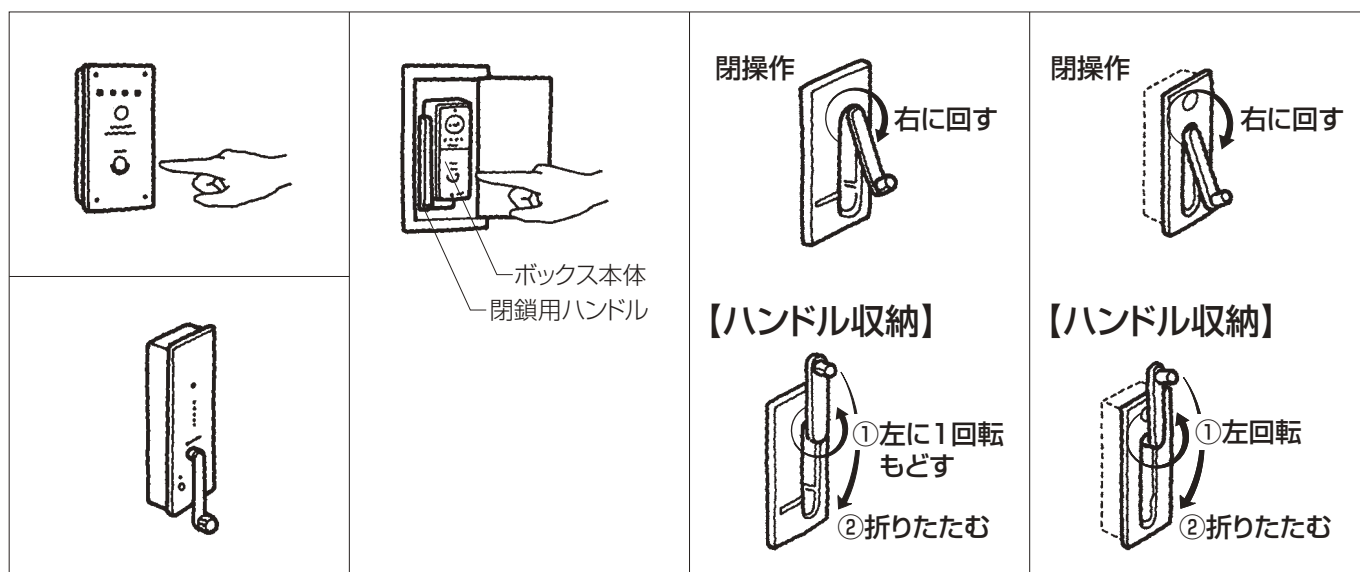
- ハンドルボックスの開あるいは押しボタンをいっばいまで押し込みます。(各窓が1窓ずつ開いていき、全窓開きます。)



※商品によってはハンドルを反時計方向に回し、開放するタイプもあります。

### ■閉鎖操作

- ハンドルを取り、差込み、時計方向に回します。(又は、ハンドルが内蔵されているタイプは、ハンドルを引出し時計方向に回す。)



※強風雨時には、安全のため窓が閉鎖されているかどうか目視で確認してください。

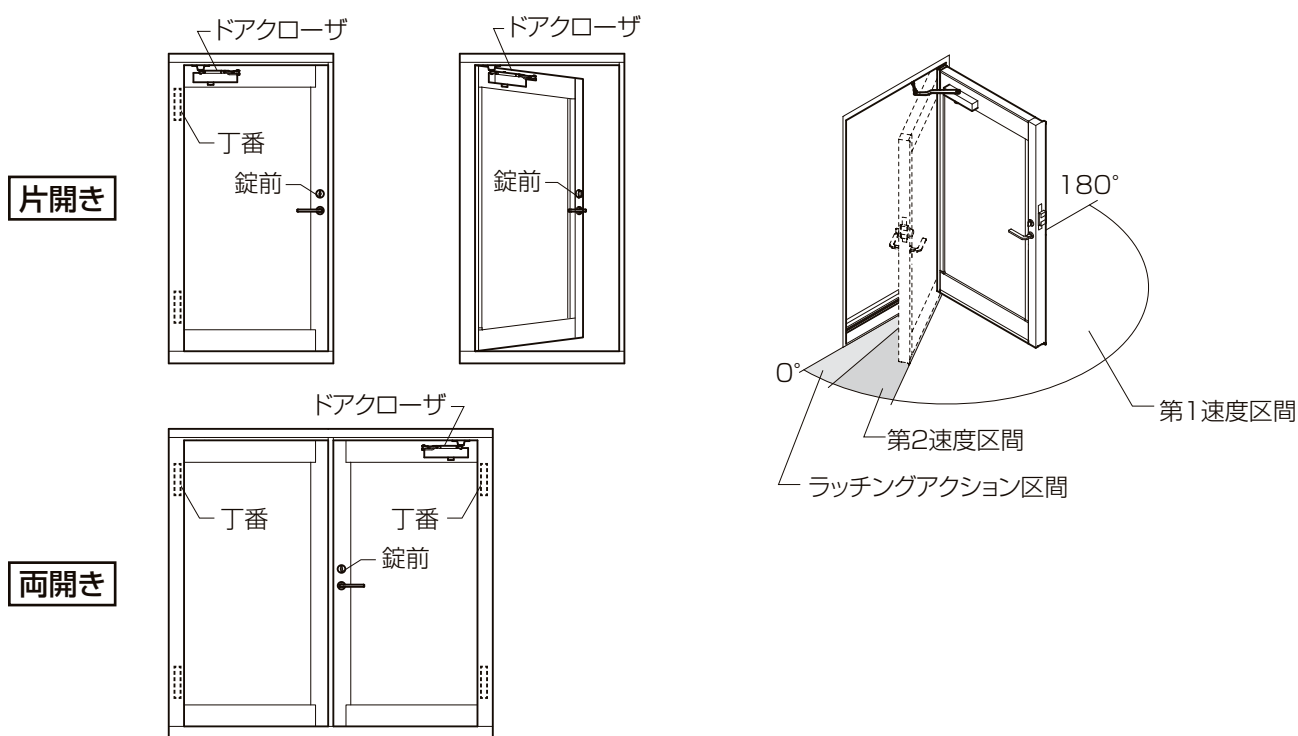
# かまちドア(片開き)・かまちドア(両開き)の取扱い

## ▲ 注 意

- ドアの開閉時には、丁番側のすき間に手を置かないでください。指をはさんで大ケガのおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。
- 風の強いときはドアを閉めてください。風によりドアが急に開閉することがあり、ドアの破損やケガにつながるおそれがあります。(フリクションアームは自閉機能がないため、ご注意ください。)
- ドアの開閉は、必ずハンドルを持って操作してください。ハンドルから手を放したり、ドアの先端に手を置くと、突風等でドアが急に閉まったとき、ドアと枠の間に指をはさみ、思わぬケガをするおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。

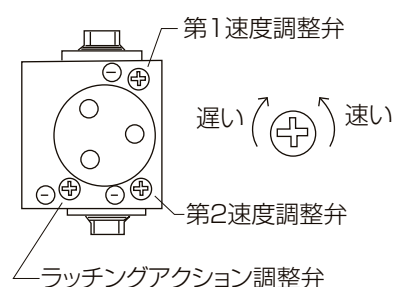
## ■ドアクローザ(自閉装置)

- 開けた扉を自動的に閉める装置で、ストップ付とストップなしの2種類の商品があります。(ストップ付は扉を90°開いたときにのみ自閉装置が働かず、開いたままの状態になります。)
- ドアクローザは引渡し時に閉鎖スピード調整をしておりますが、使用中に閉鎖スピードが変化してきますので定期的な点検が必要です。又、同室内で扉以外の開口部(窓など)が開いていると、風の流動により閉鎖スピードが速くなりますのでご注意ください。



## ■閉鎖速度の調整方法

- ドアの閉鎖速度は、ドアクローザ本体の調整バルブ横の第1、第2速度調整弁を確認し、ドライバーで調整してください。(調整は、2mm程度の微小な回転で行ってください。)
- ドアを強くすばやく閉める場合は、ラッチングアクション調整ねじを反時計方向に回転すると、すばやくドアが閉まります。時計方向に回転すると遅くなります。



お願い

### 【ドアクローザのお手入れについて】

- 本体およびアーム、取付ブラケットの取付ねじやアームの連結ねじにゆるみが生じていないか時々点検して、締め直してください。締付けがゆるいと落下や故障の原因になります。
- ドアクローザの調整弁は、ゆるめすぎると弁が抜け油モレしますので、ゆるめすぎないようにしてください。
- ※ドアクローザ本体が油もれをした場合は、閉鎖スピードの調整が不可能になり危険ですので、交換の必要があります。
- ※ドアクローザは、保証期間が1年になっています。

- ドアの開閉で異常が感じられた場合は、メンテナンス方法に従い、点検と調整をおこなってください。(調整が難しい場合は、施工業者様に調整を依頼してください。)

## ■メンテナンス方法

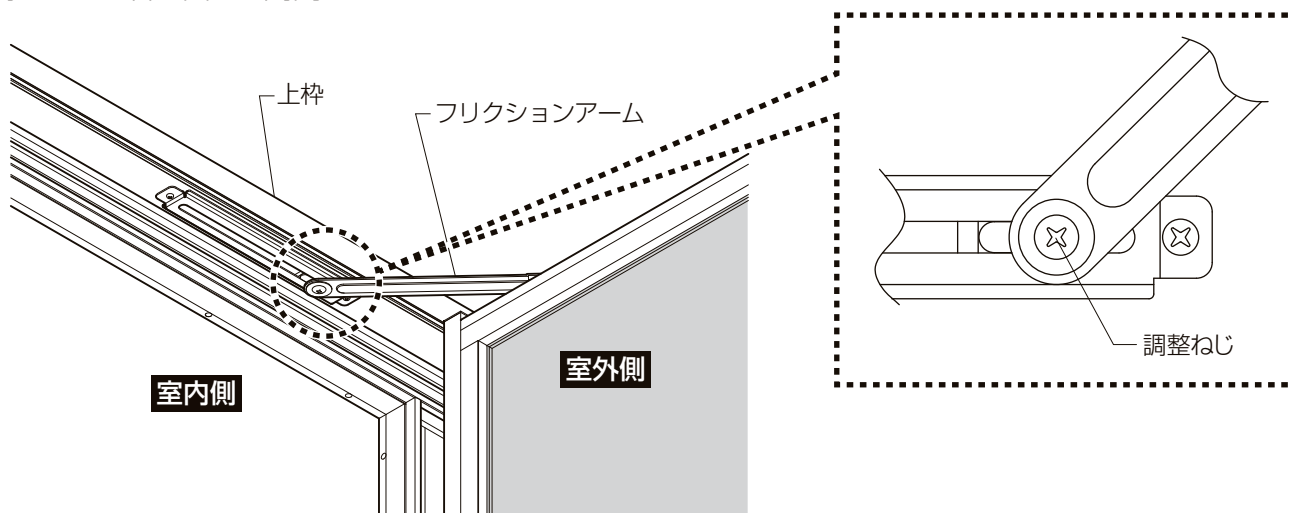
| (現象)                         | (考えられる原因)       | (点検箇所)         | (対処方法)                |
|------------------------------|-----------------|----------------|-----------------------|
| ドアの閉じる速度が徐々に速く、または遅くなった      | 季節の温度変化など       | 速度調整ねじ         | 閉鎖速度の調整方法を参照願います(31頁) |
| ドアの閉じる速度が急に速くなった             | 油漏れ             | ドアクローザ本体       | 施工された業者様に修理依頼願います     |
| ドアの閉じる速度が急に遅くなった             | 油の流れが詰まっている     | 速度調整ねじ         | 閉鎖速度の調整方法を参照願います(31頁) |
| 閉じる際『ボタン』と大きな音がするようになった      | ねじのゆるみ          | 取付ねじ           | ねじを締め付けてください          |
|                              | 油漏れ             | ドアクローザ本体       | 施工された業者様に修理依頼願います     |
|                              | ラッチング機構が強すぎる    | ラッチングアクション調整ねじ | 閉鎖速度の調整方法を参照願います(31頁) |
| ドアが所定の開放位置で止まらなくなった(ストップ付)   | ストップつまみ(ねじ)のゆるみ | ストップ装置         | 施工された業者様に修理依頼願います     |
| ドアがスムーズに閉まらなくなったり異音がするようになった | ねじのゆるみ          | ドアクローザ本体       | ねじを締め付けてください          |
|                              | 1、2速のバランスが早い    | 速度調整ねじ         | 閉鎖速度の調整方法を参照願います(31頁) |

- ラッチングアクションはドアが閉鎖位置直前(約2°)まできた時点でドアをすばやく閉める機構です。風が強くドアが閉まりきらない場合などに使用します。

## ■フリクションアーム

### ■メンテナンス方法

- 開け放したドアが風で閉まったりバタついたりするおそれがある場合は、調整ねじを右に回して開閉をきつくしてください。



## ■錠前

### ■日常の簡単なメンテナンス方法

- ①カギの抜き差しがスムーズでない場合には、市販の鍵穴専用の潤滑剤を使用願います。

#### 【油などは厳禁】

(市販の一般的な潤滑剤(サビ止め)やスプレー式潤滑油やマシン油は、ほこりが付着しやすく故障の原因となります)

- 錠前がガタつく場合には、錠前の取付け用ねじをドライバーで適度に締付けてください。

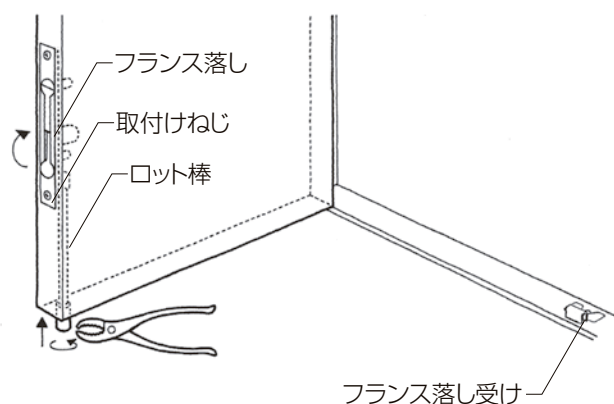
## ■フランス落し

### ■ご使用上のお願いおよびメンテナンス方法

- 両開きの場合には、片側の扉を固定する金具(フランス落し)が上下に取付けられています。障子を閉める場合は、上下のフランス落しを固定してください。固定忘れがあると、施錠しても扉が開いてしまうおそれがあります。

※フランス落しに破損がなく、動かしても扉の上下がスムーズに開かない場合は、フランス落しのロット棒のゆるみが原因ですので、フランス落しの取付けねじを取外し、フランス落しを手前に引きながら10mm程度引上げて扉を開いてください。

扉を90°まで開き、フランス落しをもと通りに戻して取付け、ロット棒をプライヤーなどで締付けてください。



# 網戸の取扱い

☐可動網戸 ☐開き網戸 ☐固定網戸

## ▲ 注 意

- 外れ止め部品、自走防止部品が正しくかかっていないと、網戸が窓枠から外れて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがありますので、下記事項をお守りください。
  - ・お手入れなどで網戸を外し、再び窓枠に取付けるときは、表示ラベルに従って外れ止め部品を必ずかけてください。
  - ・外れ止め部品、自走防止部品が正しくかかっているか、ズレや破損がないか時々点検してください。
  - ・外部にベランダ、廊下が無い場所の網戸をお手入れなどで外すときは、必ず専門業者へ依頼してください。取外しの際に誤って網戸を落下させ、人身事故や物損事故につながるおそれがあります。
- 網戸に寄りかかったりしないでください。この製品は防虫用であり、人が転落するおそれがあります。

## .....お願い.....

- 可動網戸の開閉操作はたてかまちの中央付近を持ってゆっくり行ってください。上部や下部を持って操作すると網戸が斜めになり開閉が重くなったり、無理な力がかかって破損の原因になります。

## ■網戸の防虫性について

- 網戸の防虫性は、網目より大きい虫などを防ぐには効果があります。しかし、網戸を可動させるために微小すき間があるため、使用環境によっては、網目より小さな虫やはい回る虫などが侵入する場合があります。

はい回る虫(カメムシ、テントウムシ、アリ等)は、光や暖気、観葉植物を好みわずかなすき間からでも、押し入ろうとする習性があります。

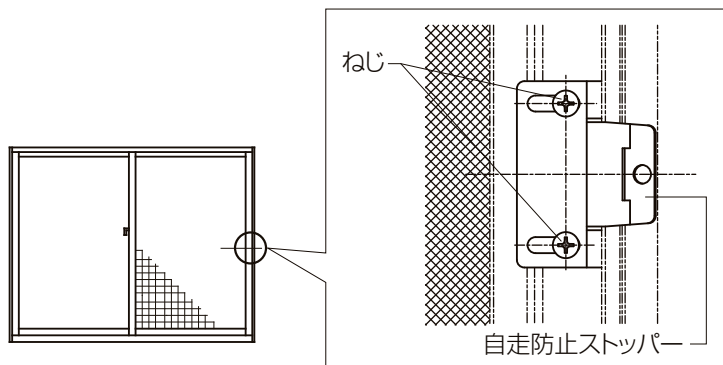
従って、網戸があっても、この様な習性を持つ虫の侵入を完全に止めることはできません。

万一、虫が室内へ侵入した場合は、殺虫剤等による駆除をお願いします。

## ■自走防止ストッパー(オプション)

- 自走防止ストッパー付網戸は突風による網戸の自走を防止する為に固定式となっています。

網戸の開閉や逆側への移動はできません。  
網戸使用時にはねじを外さないでください。  
網戸の外れ止めも必ずセットした状態として  
おいてください。  
セット方法は37頁を参照ください。

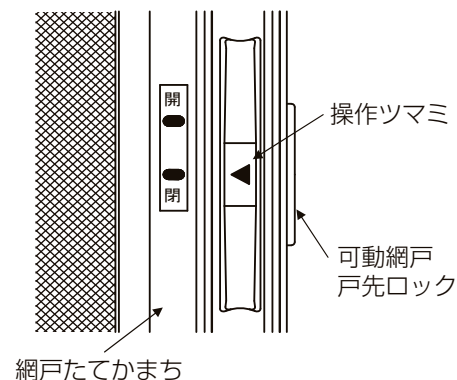


- 網戸の清掃時は網戸を外さず、柔らかい布や電気掃除機を使用して行ってください。

## ■可動網戸戸先ロック(オプション)

お願い

- 強風時には、可動網戸戸先ロックを施錠してください。風により網戸が自走し、部品等が破損するおそれがあります。網戸の外れ止めも必ずセットした状態としておいてください。  
セット方法は37頁を参照ください。



### 【操作方法】

- ①操作ツマミを下げると網戸がロックされます。
- ②操作ツマミを上げるとロックが解除され、網戸が開閉できるようになります。

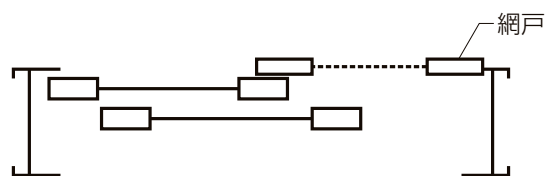
## ■可動網戸の使い方

### ■引違い窓の場合

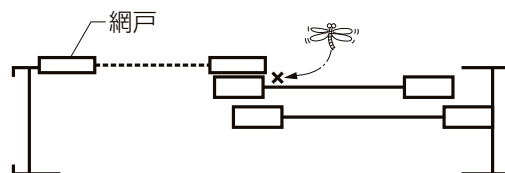
●網戸を使用するときは、右側の障子を開けて網戸を右に寄せて使用してください。左側の障子を開けて使用する場合には、障子を全開にして使用してください。

左側の障子を半開き状態で使用すると、虫が入るおそれがあります。

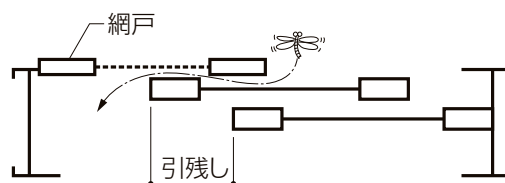
※大型把手使用時の障子引残しがあるときには、全開に出来ませんので、右側の障子を開けて、使用してください。



○：使用可



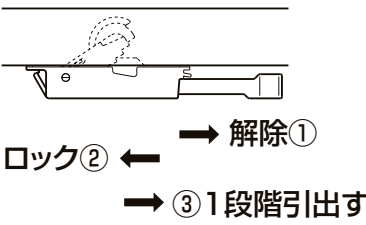
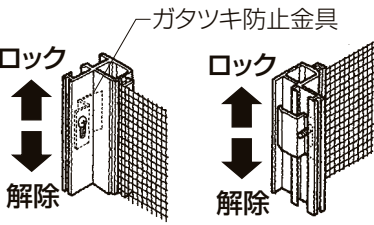
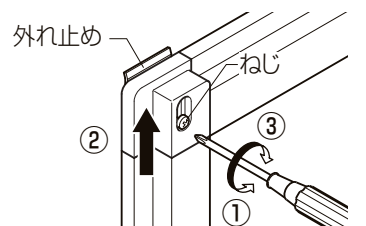
○：使用可



×：使用不可

## ■外れ止め部品のセット

●外れ止め部品は網戸の落下を防止するために取付けられている部品です。必ずセットしてください。

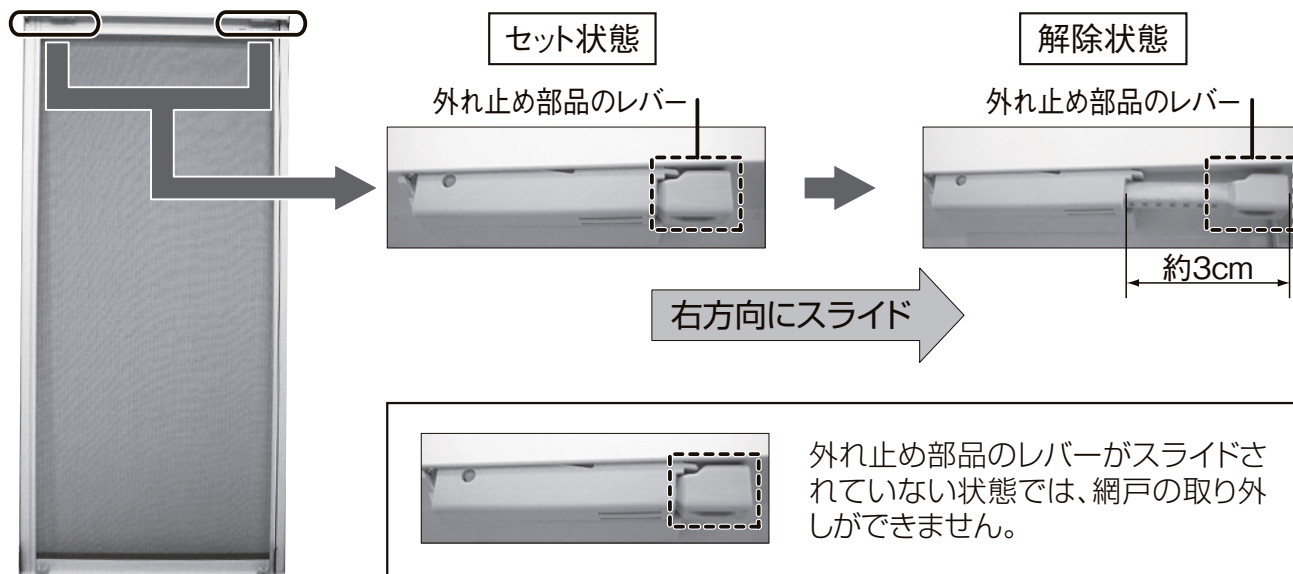
| 形式   | 外れ止め                                                                                                        | 取外し手順                                                                                       | セット手順                                                                                                             | セット方法                                            |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 可動網戸 |                            | ①レバーをいっぱい引き出します。<br>②網戸を持ち上げ外します。                                                           | ①操作レバーをいっぱい引出して網戸を建込みます。<br>②建込み後、操作レバーをいっぱい押込んで網戸の開閉をします。<br>③スムーズに開閉できなければ、操作レバーを1段階引出します。(最大の引出しは2段階までにしてください) | 商品により形式が異なります。本体表示ラベルを貼付してありますので、その指示を必ずお守りください。 |
| 開き網戸 | <b>●上下スライド式(開き窓用)</b><br> | ①ガタツキ防止金具のねじをゆるめ下に下げます。<br>②網戸を持ち上げ外します。<br>(※たてかまち中間にボールチェーン式ストッパーがある場合は共にねじをゆるめて外してください。) | ①ねじをゆるめます。<br>②ガタツキ防止金具を上へ上げサッシ枠に当てます。<br>③ねじを締めます。<br>④網戸を持ち上げ、下部を外に押して外れないことを確認します。                             |                                                  |
| 固定網戸 |                          | ①外れ止めねじをゆるめて、下にスライドします。<br>②網戸を持ち上げ外します。                                                    | ①ねじをゆるめます。<br>②ねじを上へスライドさせます。<br>③ねじを締めて固定します。                                                                    |                                                  |

## ■本体表示ラベルの表示例

|                                              |                                                                                                              |                             |                                                                                      |                                      |                        |
|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|------------------------|
| <b>▲注意</b><br>網戸落下防止のため、外れ止め部品を必ず2箇所かけてください。 | <b>外調<br/>れ整<br/>止方<br/>め法</b><br>網戸を窓枠に取付けます。レバーを止まるまで押し込みます。開閉が重い場合、2目盛りまで戻すことができます。3目盛り戻すと網戸が外れるおそれがあります。 | 外れ止め<br>※調整<br>(2目盛り<br>まで) |  | <b>LIXIL<br/>PRESEA<br/>A3060512</b> | 12345<br>6789<br>12/34 |
|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|------------------------|

## ■外れ止めの解除

①網戸上部の左右2箇所の外れ止め部品のレバーを止まるまでスライドし解除状態にしてください。



②網戸を上側に止まるまで持ち上げた状態で室外側に押して、網戸をサッシ下部のレールから取り外してください。



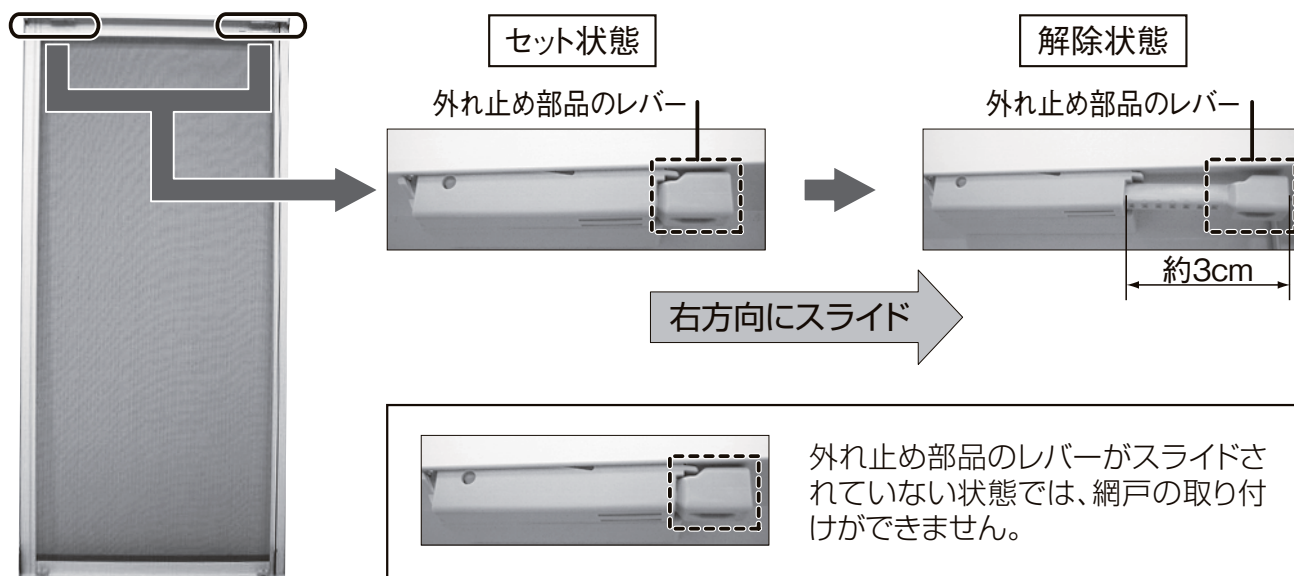
室外側に足場がない場合は、室内側から網戸を取り付けてください。

### ▲ 注 意

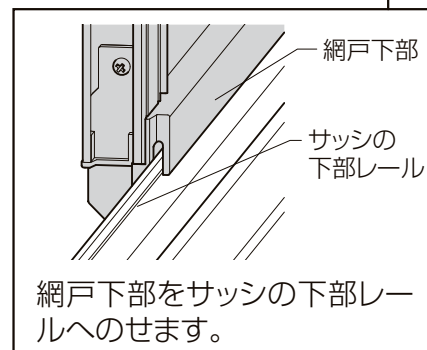
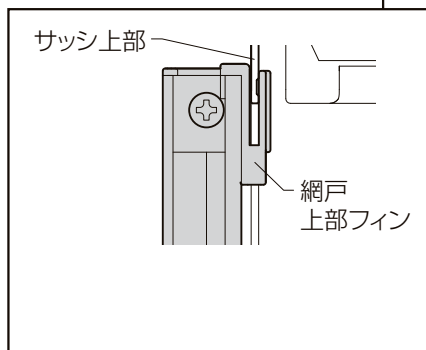
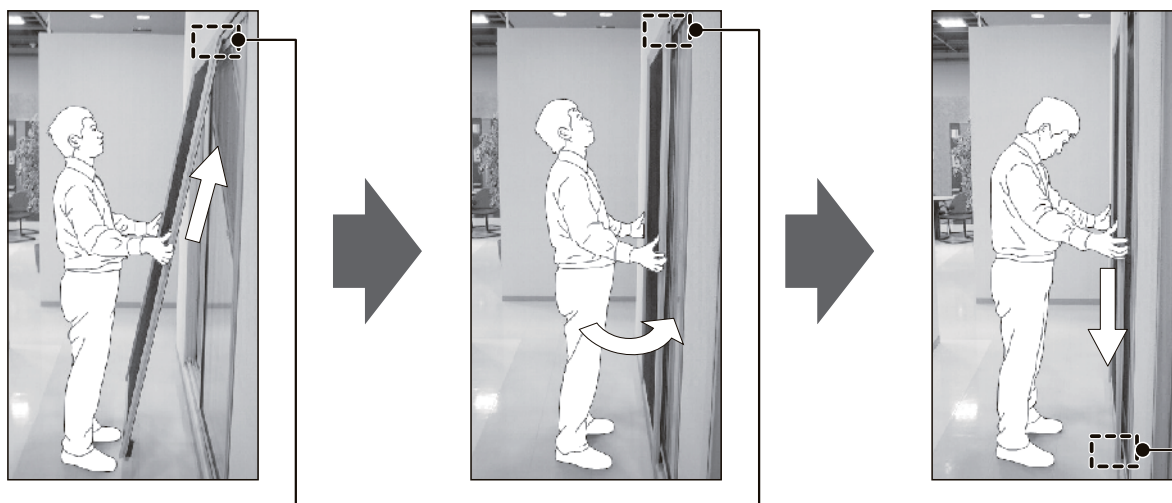
- 網戸を持ち上げるときに、力をかけ過ぎないでください。外れ止めが破損し網戸が外れ人身事故や物損事故につながるおそれがあります。
- 室内側から網戸を取り外す場合は、室外側に網戸を落下させないようご注意ください。人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

## ■外れ止めのセット

①網戸上部の左右2箇所の外れ止め部品のレバーを止まるまでスライドし解除状態にしてください。



②網戸を上側に止まるまで持ち上げた状態で室内側に押し、網戸をサッシの下部レールに取り付けてください。

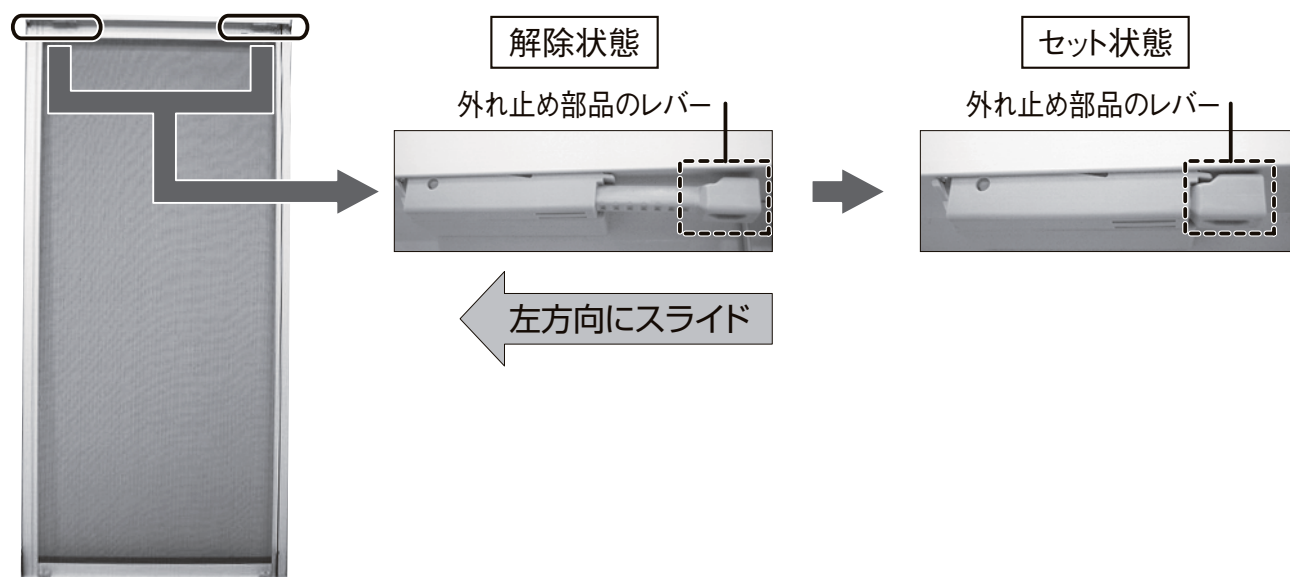


室外側に足場がない場合は、室内側から網戸を取り付けてください。

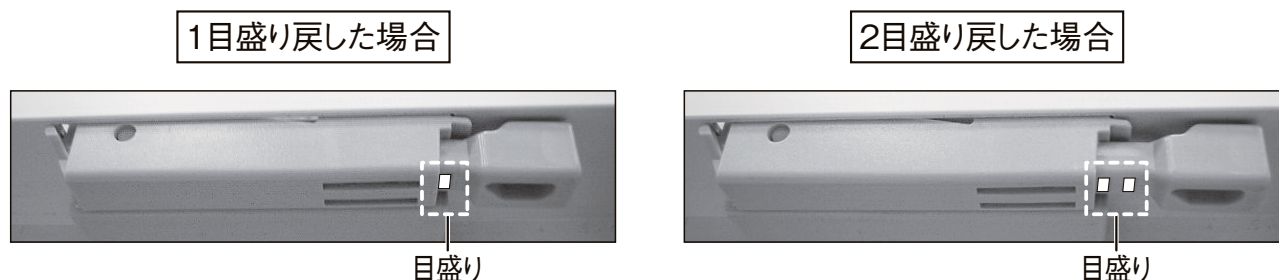
## ▲ 注 意

●室内側から網戸を取り付ける場合は、室外側に網戸を落下させないようにご注意ください。  
人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

③取り付けられた網戸上部の左右2箇所の外れ止め部品のレバーを止まるまでスライドし、セット状態にしてください。



④網戸を動かしてみて重い場合には、網戸上部の左右2箇所の外れ止め部品のレバーを1目盛り、または2目盛り戻してください。



### ▲ 注 意

- 網戸外れ止めのレバーは3目盛り以上戻さないでください。3目盛り戻すと網戸が外れ人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

⑤網戸を上側に止まるところまで持ち上げた状態で室外側に押して、網戸がサッシ下枠のレールから外れないことを確認してください。



### ▲ 注 意

- 網戸を持ち上げるときに、力をかけ過ぎないでください。外れ止めが破損し網戸が外れ人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

# 横引き収納網戸の取扱い

## ▲ 注 意

- たて枠・上下枠固定部品が正しくかかっているか、ズレや破損がないか時々点検してください。網戸が窓枠から外れて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

## ●お願い

- 網戸を使用しないときは、必ず網を収納するようにしてください。網の特性上、開いた状態にしておくと折り目が弱くなって、たたみづらくなることがあります。
- 網戸に寄りかかったり、網を押したりしないでください。  
網戸本体や網が外れるおそれがあります。
- 強風時には使用しないでください。網の不具合やヒモ等部品の破損が生じるおそれがあります。
- 本製品は網戸を折りたたむ構造のため、網の上下を枠部と固定していません。  
従って風により網がたわむと網と枠の上下部にすき間が生じやすくなり、使用状況によっては虫が入ってくる場合があります。
- 浴室等、常に水がかかるおそれのあるところには使用できません。
- 開閉操作はたてかまちの中央付近を持ってゆっくり行ってください。上部や下部を持って操作するとたてかまちが斜めになり開閉が重くなったり、ヒモに無理な力がかかって破損の原因になります。また、急な操作は紐の寿命を早める原因になります。
- 両引きタイプ(Mh>2000)は突合せかまち中央にマグネットが組込まれていますので、網戸引出し時は左右の突合せかまちを組合せて、マグネットで必ず固定してください。

## ■網戸の防虫性について

- 網戸の防虫性は、網目より大きい虫などを防ぐには効果があります。しかし、網戸を可動させるために微小すき間があるため、使用環境によっては、網目より小さな虫やはい回る虫などが侵入する場合があります。

はい回る虫(カメムシ、テントウムシ、アリ等)は、光や暖気、観葉植物を好みわずかなすき間からでも、押し入ろうとする習性があります。

従って、網戸があっても、このような習性を持つ虫の侵入を完全に止めることはできません。

万一、虫が室内へ侵入した場合は、殺虫剤等による駆除をお願いします。

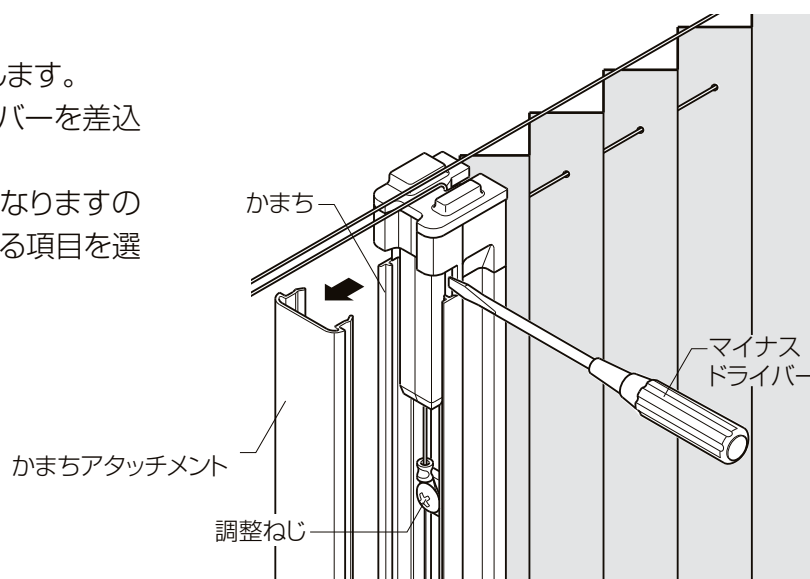
## ■建付け調整(現象別調整方法)

### ■建付けが悪くなった場合

①網戸のかまちからアタッチメントを外します。

※かま치의端部にある溝にマイナスドライバーを差込むと外しやすくなります。

※不具合の内容により、調整するねじが異なりますので、下記の【現象別調整方法】から該当する項目を選んでください。



### ■網戸のタイプ

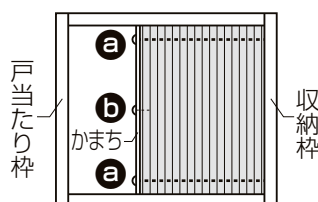
※調整ねじは下記のように色分けしています。

- a…シルバー
- b…ホワイト
- c…ブロンズ

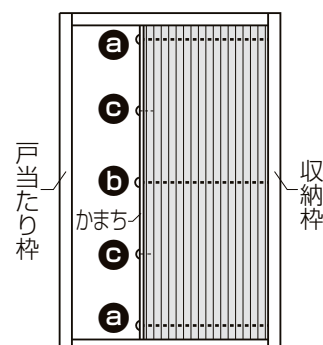
※図は片引きタイプ。

※両引きタイプも同様の調整方法。

#### ●3本ねじタイプ



#### ●5本ねじタイプ



## ●現象別調整方法

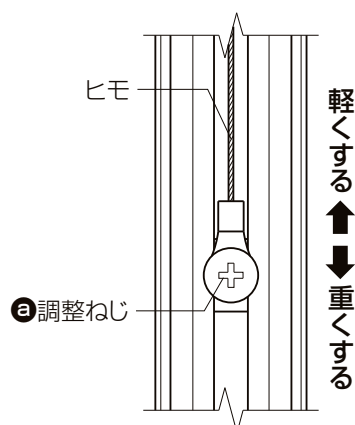
### ■網戸の開閉が重い(軽い)

①●aねじをゆるめます。

②軽くする場合は、調整ねじをヒモの見える方向に移動します。

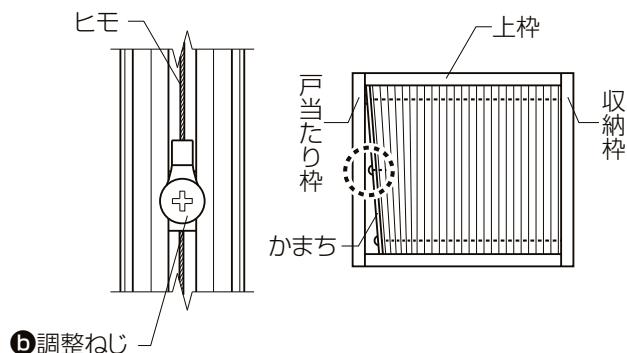
重くする場合は、逆方向に移動します。

※●aねじは2本あります。通常は片方だけで調整できますが、調整しきれない場合は、もう一方のねじも使用してください。



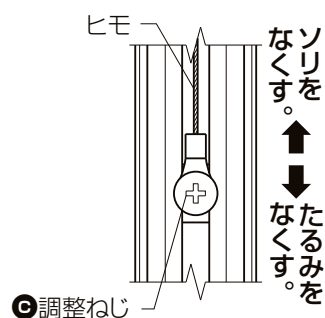
## ■網戸と戸当たり枠の間にすき間が発生

- ①**b**ねじをゆるめます。
- ②かまちを収納枠側に押付け、収納枠とかまちが平行になるようにします。
- ③**b**ねじをしめて固定します。
- ④網戸を数回開閉し、すき間がでないか確認してください。
- ⑤すき間が直らない場合、①～④をくり返してください。

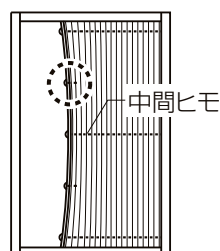


## ■中間ヒモのたるみ、又はかまちにソリが発生

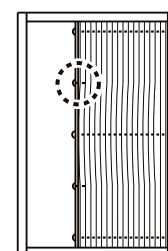
- ①**c**ねじをゆるめます。
  - ②ソリをなくす場合は、調整ねじをヒモの見える方向に移動します。  
たるみを取る場合は、逆方向に移動します。
- ※**c**ねじは2本あります。通常は片方だけで調整できますが、調整しきれない場合は、もう一方のねじも使用してください。



### ●ソリ

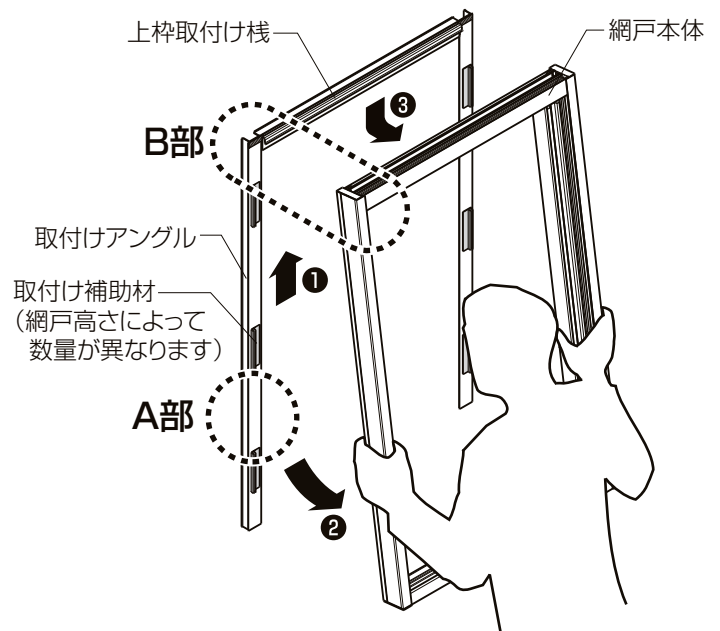
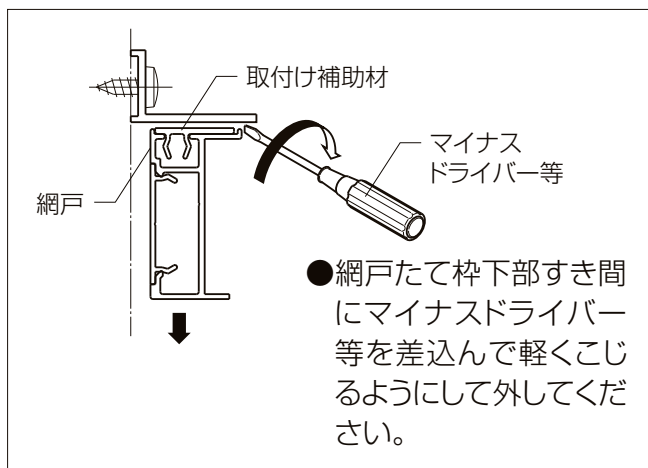
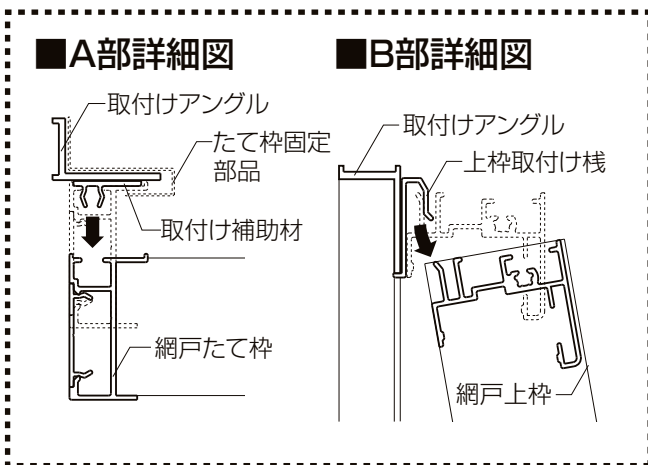


### ●たるみ



## ■網戸の外し方(補修の場合以外は外さないでください)

- ①網戸たて枠と取付けアングルに差込まれてねじ止めしてある、たて枠固定部品を外します。
- ②網戸全体を上により約3mm程度持ち上げます。  
(高さ1700mmを超える網戸、または幅1690mmを超える網戸には下枠部に下枠固定部品、および幅1830mmを超える網戸には上枠部に上枠固定部品がねじ止めしてありますので、先に外してください。  
また、たて枠部にたて枠固定部品がねじ止めしてある場合も、先に外してください。)
- ③網戸を持ち上げた状態でたて枠下部すき間にマイナスドライバー等を差込んで軽くこじるようにして、取付けアングルの取付け補助材から外します。
- ④上枠取付け枠から網戸上枠部が外れるように、上枠を下にずらしながらたて枠下部を手前に引いてください。
- ⑤網戸を取付ける場合は、③→①の逆の操作をして取付けます。



# 横引きロール網戸の取扱い

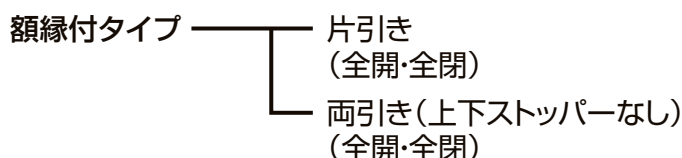
## ▲ 注 意

- 本商品は、手を離すと自動で網が収納されますが、手掛けに手をそえてゆっくり開閉操作を行なってください。収納口付近に手や足などが無いことを確認してから、網を収納してください。はさまれて思わぬケガにつながるおそれがあります。

## お願い

- 網戸によりかかったり、網を押したりしないでください。網がたるんだり、網戸本体や網が外れるおそれがあります。
- 強風時には使用しないでください。網戸がひらいてしまう、または網を収納できなくなるなどの不具合が生じます。
- 網を収納するとき、収納しきれなかった場合は、戸先かまちを大きく引出して2～3回出し入れを繰り返して収納し直してください。（網が折れ曲がったまま収納されますと、クセがつき収納しずらくなるおそれがあります。）
- 網を引出したときに、網の一部にたるみや波打ちが発生する場合がありますが、商品の特性によるもので、機能上の問題ではありません。
- 開閉時のスピードにより、網の収納部よりバツキ音が発生しますが、商品の特性によるもので機能上の問題ではありません。
- 浴室等、常に水がかかるおそれのあるところには使用できません。
- 網戸の開閉操作は、戸先かまちの中央付近を持って行なってください。上部や下部を持って操作すると、戸先かまちが極端に斜めになり開閉が重くなったり、網がレールから外れる原因になります。（高さのあるハイサッシに取付けてもスムーズな開閉操作を確保するため、戸先かまちの上下にクリアランスを設けています。中央付近を持って操作しないと戸先かまちが斜めになり、開閉が重くなるおそれがあります。）
- 網を引出すとき、網が引っ掛かり戸先かまちが引出せなくなった場合はいったん戻して引出し直してください。

## ■ タイプ区分



## ■ 網戸の防虫性について

- 網戸の防虫性は、網目より大きい虫などを防ぐには効果があります。しかし、網戸を可動させるために微小すき間があるため、使用環境によっては、網目より小さな虫やはい回る虫などが侵入する場合があります。

はい回る虫(カメムシ、テントウムシ、アリ等)は、光や暖気、観葉植物を好みわずかなすき間からでも、押し入ろうとする習性があります。

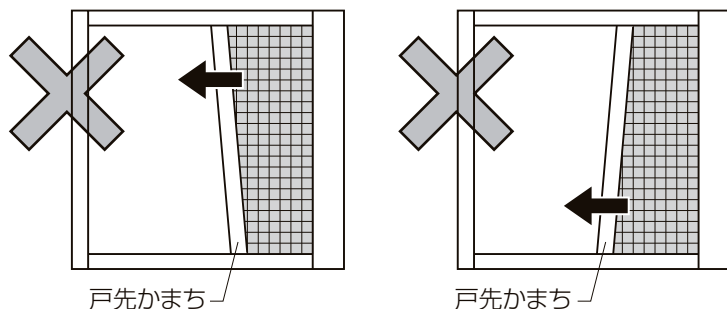
従って、網戸があっても、このような習性を持つ虫の侵入を完全に止めることはできません。

万一、虫が室内へ侵入した場合は、殺虫剤等による駆除をお願いします。

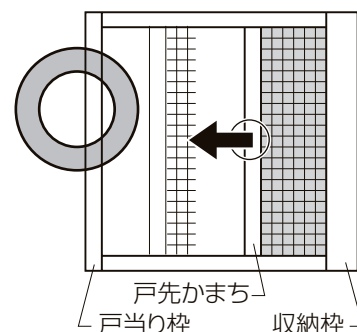
## ■網戸の操作方法

- 開閉操作は戸先かまちの中央付近を持って行ってください。  
(なお、開閉操作中に、戸先かまちが少し斜めになる場合がありますが、問題はありません。ただし、上部や下部を持って操作すると、戸先かまちが極端に斜めになり開閉が重くなったり、網が上下レールから外れる原因になります。)
- 戸先かまちから手を離すと、自動で網が収納されます。自動収納しきれなかった場合は、手を添えて最後まで収納してください。
- 勢いを付けて網を収納しないでください。破損の原因になります。
- 網戸を閉めるときは、戸先かまちと戸当り枠もしくは戸先かまち同士のマグネットが合わさっていることを確認してから、手を離してください。

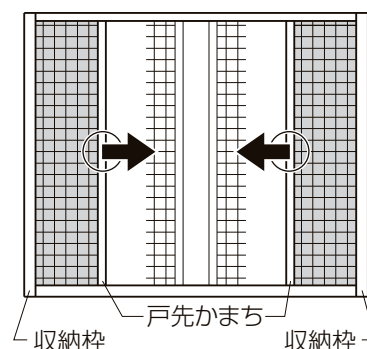
上部を持って操作しないでください      下部を持って操作しないでください



【片引き】 中央付近を持って操作してください

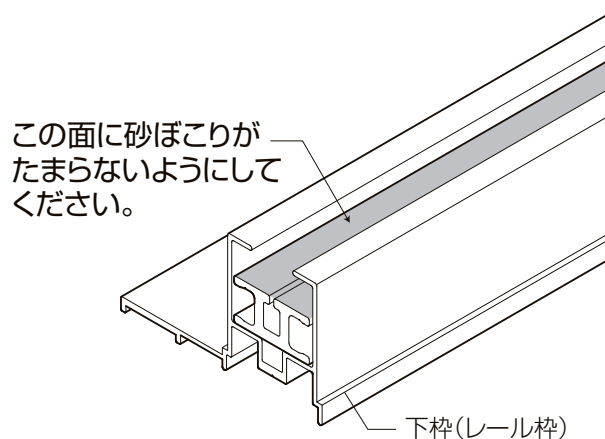


【両引き】



## ■レール枠清掃時のご注意

- 下枠(レール枠)内に、砂ぼこりがたまらないようにしてください。  
汚れを放置しておくと開閉できなくなります。



# Vルーバの取扱い

お願い

- 開閉操作はルーバーを手で持って行わないでください。故障の原因となります。

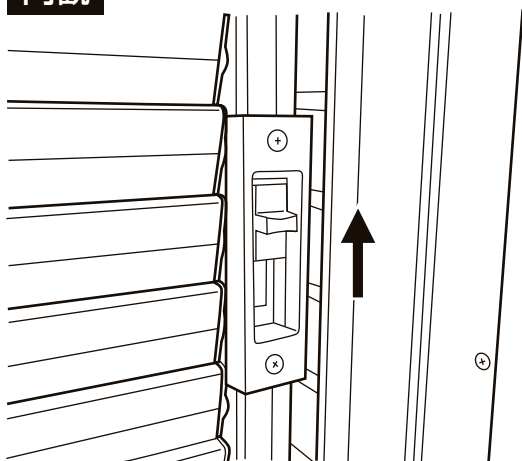
## 操作方法

- 開閉操作盤のツマミを上下させることで、ルーバーの角度調整ができ、その位置でルーバーが自動的に固定されます。
  - ・一般タイプは左右どちらか1個所に開閉操作盤がつきます。
  - ・中方立付の場合は、左右に1個所ずつに開閉操作盤がつきます。
  - ・上下分割可動仕様の場合は、片側の上下2個所に開閉操作盤がつきます。

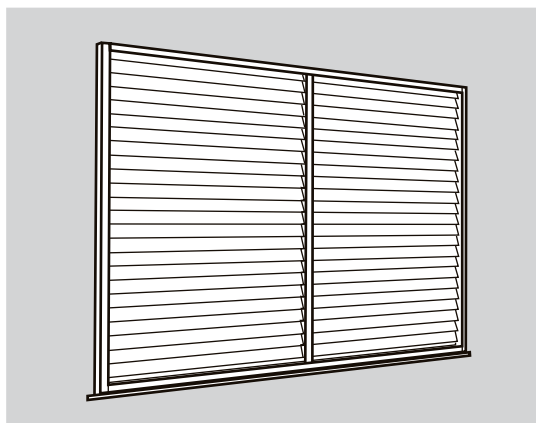
## ●閉めるとき

- 開閉操作盤のツマミを上いっぱいに移動させると、全閉状態になります。

内観



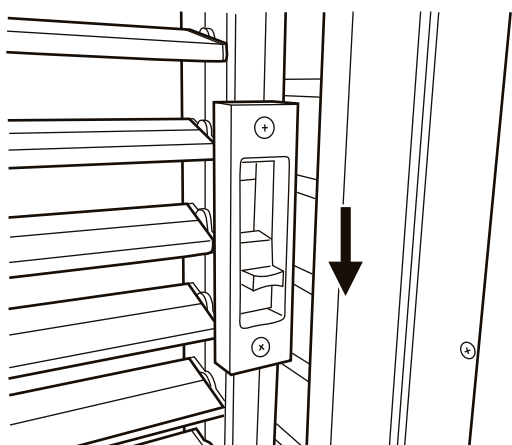
外観



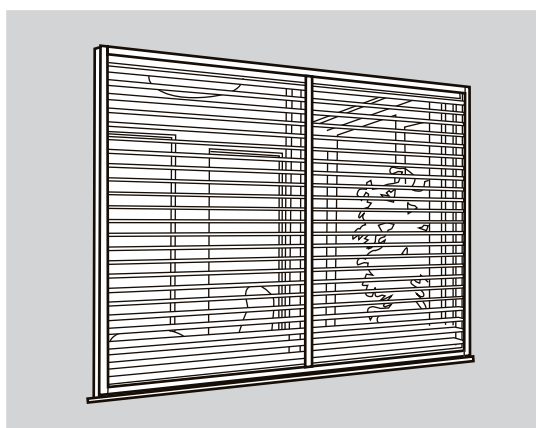
## ●開けるとき

- 開閉操作盤のツマミを下いっぱいに移動させると、全開状態（ルーバーがほぼ水平）になります。

内観



外観



## MEMO

---

# アフターメンテナンスについて

## 保証について

保証期間中は、保証の規定にしたがって修理をさせていただきます。

保証期間中でも有料になる場合がありますので「**商品保証について**」の内容をよくご確認ください。

保証期間を過ぎている場合は、ご希望により有料で修理をさせていただきます。修理用部品の保有期間が過ぎている場合は、修理ができないこともあります。

## 修理を依頼されるときは

点検および修理を依頼される前に、各商品の『**取扱い説明書**』をもう一度ご確認の上、それでも故障が直らない場合やご不明な点がある場合は、必ず販売店、弊社の地域ごとの営業事業所または「**LIXIL修理受付センター**」にご相談ください。その際、下記のことをご連絡ください。

- ①ご住所・お名前・電話番号
- ②商品名・品番
- ③ご購入日またはご入居日
- ※分譲住宅（建売）、分譲マンションは建設業者から売主への引渡し日となります。
- ④故障または異常の内容
- ⑤訪問ご希望日
- ⑥LIXIL修理受付センターにご連絡の際は、商品のご購入者様名

## 個人情報保護について

当社は、当社取扱商品のユーザーさまおよび流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社プライバシーポリシーに記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取扱いについての詳細は、LIXILオフィシャルサイトの「**プライバシーポリシー**」をご覧ください。

## 点検および修理の依頼先

- ・お求めの取扱い店
- ・製品に表示している連絡先
- ・LIXIL修理受付センター

## 点検および修理料金のしくみ

修理料金は技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料は、点検および故障箇所の修理および部品交換・調整などの作業にかかる費用です。

部品代は、修理に使用した部品代です。

出張料は、修理士を派遣する場合の費用です。なお修理により交換した部品・製品は、特段のお申し出がない場合は当社にて引き取らせていただきます。

## 修理用部品の保有期間

この商品の修理用部品（商品の機能維持には問題ない範囲内で色やデザインが異なる代替部品も含まれます。）の最低保有期間は、製造打ち切り後10年です。電装系部品については製造打ち切り後7年、室内建具などの扉・引出しなどの面材については、製造打ち切り後2年としております。

※機器類など専用の取扱い説明書があるものは除きます。添付の取扱い説明書をご確認ください。

また、修理用部品の供給が難しい場合は新シリーズの類似商品を供給させていただくこともありますのでご了承ください。

## 交換用部品について

お客さまご自身でお取替えいただける部品については、LIXILオフィシャルサイトよりご注文いただけます。

●LIXIL PARTS SHOP <https://partsshop.lixil.co.jp/shop/default.aspx>

掲載のない部品につきましては、お求めの取扱い店または当社お客さま相談センター☎0120-126-001にご連絡ください。

【安全・安心にご使用いただくには専門業者による定期的な維持管理が重要です】

日頃からサッシに異常が無いか、操作・作動状況の変化が無いかを注意していただき、異常を感じたら速やかに専門業者にご相談ください。

安全に係る部品として、引違い窓等の戸車、はすれ止め、ストッパーなどは、10年を目安\*に交換することを推奨します。

異常が確認されない場合でも、時間とともに故障のリスクが高まる可能性があります。

（※使用環境により異なります。また保証期間ではありません。）

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |       |  |       |  |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--|-------|--|--|
| <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px; margin-bottom: 10px;">PRESEA-H 取扱い説明書</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">株式会社 LIXIL</div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">納 付 書（配布依頼書）</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">年 月 日</div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">御中</div> <div style="border: 1px solid black; margin-bottom: 10px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;">工 事 名</td> <td style="height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">所 在 地</td> <td style="height: 20px;"></td> </tr> </table> </div> <p>上記工事の商品を正しく使用していただき、性能・機能保持のため、<br/> <b>PRESEA-H 取扱い説明書</b> を建主さま（ご使用者）にお渡しください。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">社名 _____</div> | 工 事 名 |  | 所 在 地 |  |  |
| 工 事 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |       |  |       |  |  |
| 所 在 地                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |       |  |       |  |  |

キ リ ト リ

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |       |  |       |  |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--|-------|--|--|
| <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px; margin-bottom: 10px;">② PRESEA-H 取扱い説明書</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">株式会社 LIXIL</div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">受 領 書</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">年 月 日</div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">御中</div> <div style="border: 1px solid black; margin-bottom: 10px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;">工 事 名</td> <td style="height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">所 在 地</td> <td style="height: 20px;"></td> </tr> </table> </div> <p>上記工事の <b>PRESEA-H 取扱い説明書</b> を受領致しました。</p> <div style="margin-top: 10px;"> <u>施工者よりの引き渡し日</u>      年      月      日         </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">社名 _____</div> | 工 事 名 |  | 所 在 地 |  |  |
| 工 事 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |  |       |  |  |
| 所 在 地                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |  |       |  |  |

## MEMO

---

## MEMO

---

## MEMO

---

## 株式会社 LIXIL

---

商品についてのお問い合わせ・部品のご購入は、お客さま相談センターまで

受付時間/月～金 9:00～18:00 土・日・祝日 9:00～17:00(ゴールデンウィーク、夏期休暇、年末年始等を除く)

TEL. ☎ 0120-126-001 FAX. 03-3638-8447

---

●旭トステム外装株式会社のサイディング材に関する商品相談は

旭トステム外装(株)サービスデスクナビダイヤル TEL.0570-001-117

---

修理のご依頼は、LIXIL修理受付センターまで

受付時間/月～金 9:00～18:00(祝日、年末年始、夏期休暇等を除く)

TEL. ☎ 0120-413-433 FAX. ☎ 0120-413-436

<https://www.lixil.co.jp/support/>

---

### 安全に関するご注意

ご使用の前に「取扱説明書」をよくご覧の上、正しくお使いください。また、取付設置工事は「取付設置説明書・施工説明書」に従ってください。いずれの場合も、取り扱いを誤ると事故や故障の原因となります。

### 個人情報保護について

当社は、当社取扱商品のユーザーさま及び流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社プライバシーポリシーに記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取り扱いについての詳細は、当社オフィシャルサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

---

●写真は印刷のため、実際の色と異なる場合がございます。現物またはサンプルなどにてご確認ください。

●仕様・価格は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

●本カタログ掲載内容及び写真・図版の無断転載はかたくお断りします。

## 株式会社 LIXIL



地球環境のためにLIXILは  
業界トップランナーとして  
先進的な取組をしています。

会社や商品についての情報のご確認は、LIXIL オフィシャルサイトまで

<https://www.lixil.co.jp/>

※ショールームの所在地、カタログの閲覧・請求、図面・CAD データなどの各種情報は、上記オフィシャルサイトから  
ご確認ください。

|     |        |    |               |
|-----|--------|----|---------------|
| 業務用 | AG1500 | 06 | 2021.12.20 発行 |
|-----|--------|----|---------------|

